

とこなめ

1967



表 紙

名 称	常滑市民体育会館
所 在 地	常滑市字鯉江新開 14 の 83
竣 工	昭和 41 年 10 月
敷地面積	5,614.08m ²
建築面積	1,872.60m ²
延べ面積	3,725.14m ²



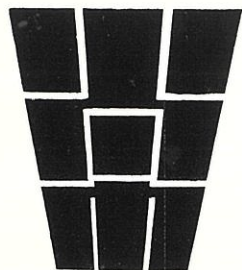
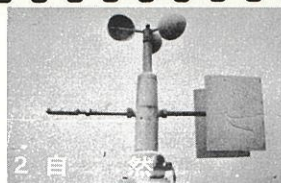
発刊にあたって

陶磁器製品の産地として古くから知られる常滑は、昭和29年4月、4町1村が合併して市制を施行、現在人口5万3千余の青年都市であります。以来14年、幾多の試練に遭遇しながらも、教育文化施設の充実整備をはじめ道路整備、環境衛生面の充実、農漁業の近代化、福祉事業の推進等各分野にわたって大きく飛躍することができました。みなさまのご指導ご援助に対し改めて深甚なる謝意を表すものであります。

国土総合開発計画のうちでも主要な使命をもつわが中部圏は、待望の中部圏開発整備法の裏づけを得て、一步一步具体化への発展方向に前進することになりましたが、その中でも重要な役割りを課せられた伊勢湾臨海都市として本市はさらに近代都市としての体制を整え地域社会生活の福祉向上を目標に一層の躍進を遂げるべく、みなさま方のお力添えを心からお願いするものであります。

この要覧は、本市の現況をありのままに紹介するため発刊しましたが、本誌により常滑市を正しくご理解いただき、さらに今後の進展にお心をお寄せいただければ幸いに存じます。

常滑市長 久田 慶三



市章

(昭和30年6月制定)

常滑市の「常」の字を、杉本健吉氏が図案化したもので、市民の団結と市勢の発展を表わしている。





沿革

本市は昭和29年4月1日、常滑町、鬼崎町、西浦町、大野町および三和村の4町1村が合併して誕生した。その後、南部に隣接した小鈴谷町のうち、大谷、小鈴谷、広目および坂井の4地区が昭和32年3月31日に市域に加わり、現在の常滑市となった。

以前の歴史をさぐると、往古、漁労の民が海岸沿いにあるいは海を渡って当地に住みついたと想像される。和名抄には知多郡贅代郷の地と記されており、永正4年（1507年）の宗長宇津山記には「伊勢の国多気より大湊に出で、尾張の国知多郡常滑という津ひ渡る」とある。

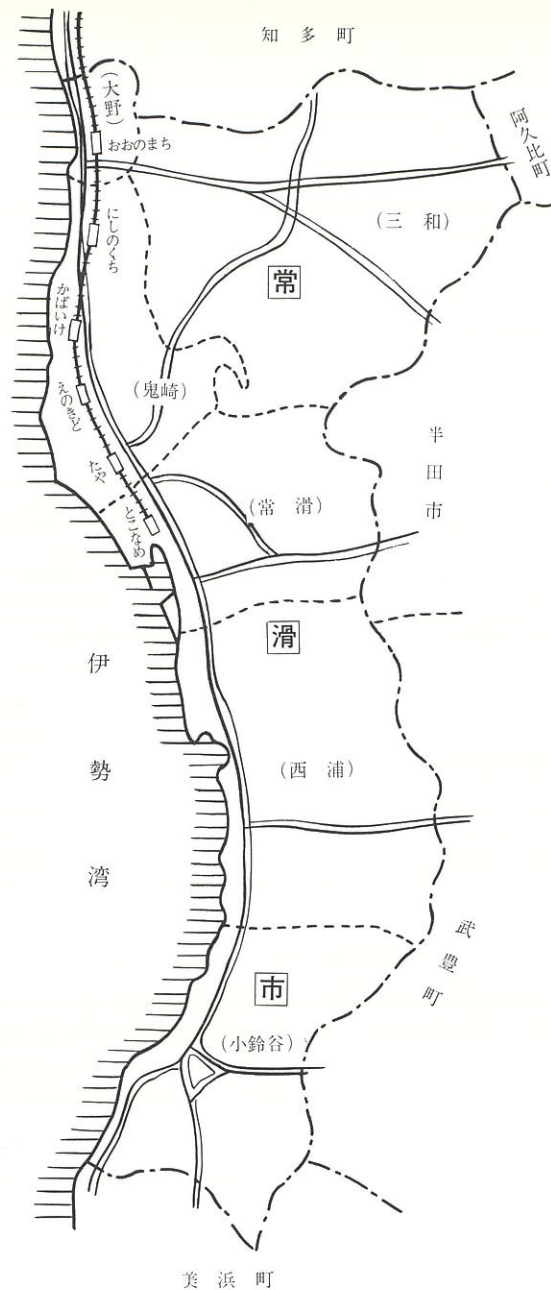
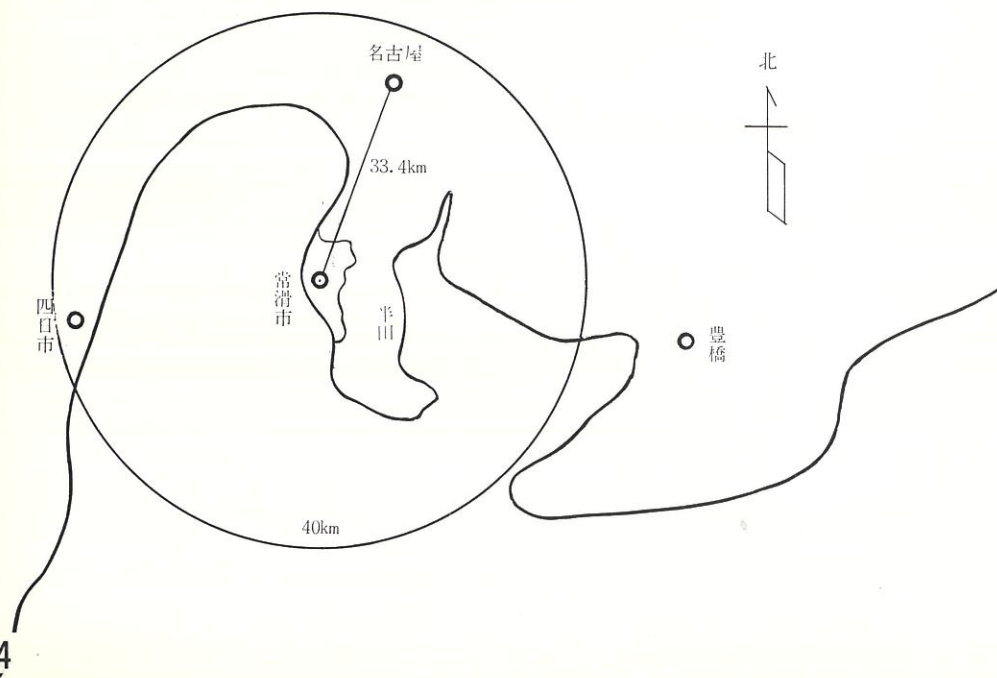
戦国時代を経て江戸時代には尾張藩の治下であり、維新後は名古屋県、額田県そして愛知県に属した。

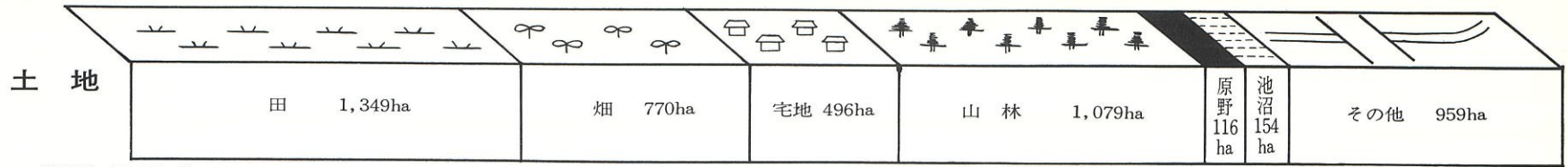
本市の地名「常滑」については、万葉集にも用例があり、学説では「常」は床の義にとり、「滑」は滑（なめらか）の義にとるのが妥当であるとされている。古来当地は岩土盤の露出が多く、その性質はなめらかになっており、この岩土盤全体をも「とこなめ」と呼ぶ習俗を生んだものとされている。



位置

本市は愛知県の知多半島、西海岸中央部にあって、東経136度50分、北緯34度54分に位置し、東西6.1km、南北15km、面積49.23km²、西は伊勢湾に面して平たん地が続き第4期沖積層であり、東は半島の背骨ともみえる第3期層の丘陵地帯で半田市、武豊町との境をなしている。海岸沿いに市街地を形成し、伊勢湾は漁業に、平たん地は商工業に、そして丘陵部は農畜産にとめぐまれた地理的条件にある。中部圏の核心名古屋中心部へは電車で45分、陸路1時間の距離にある。



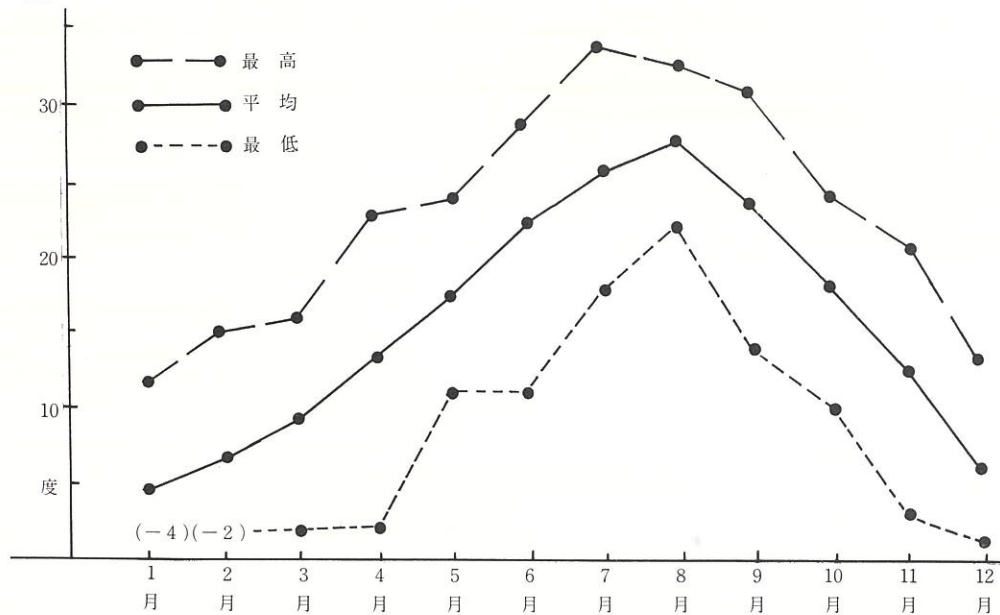


総面積 49.23km²

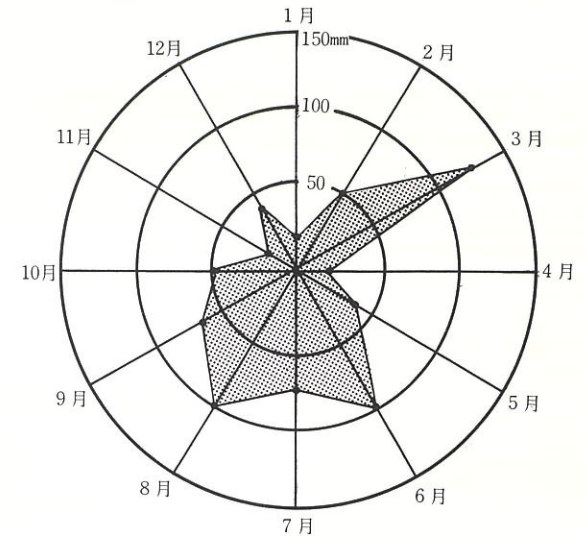
気 象

知多半島は伊勢湾、三河湾を両分し、三方を海に囲まれた形態である。この海流により夏は涼しく、冬は暖かいめぐまれた気象下にある。季節風は春夏は東南から、秋冬は北西から吹き、雨期以外は降雨少なく晴天が多い。また冬期の降雪はまれにしかない。

昭和41年の気温



昭和41年の降雨量



人口

人口の推移

各年4月1日現在

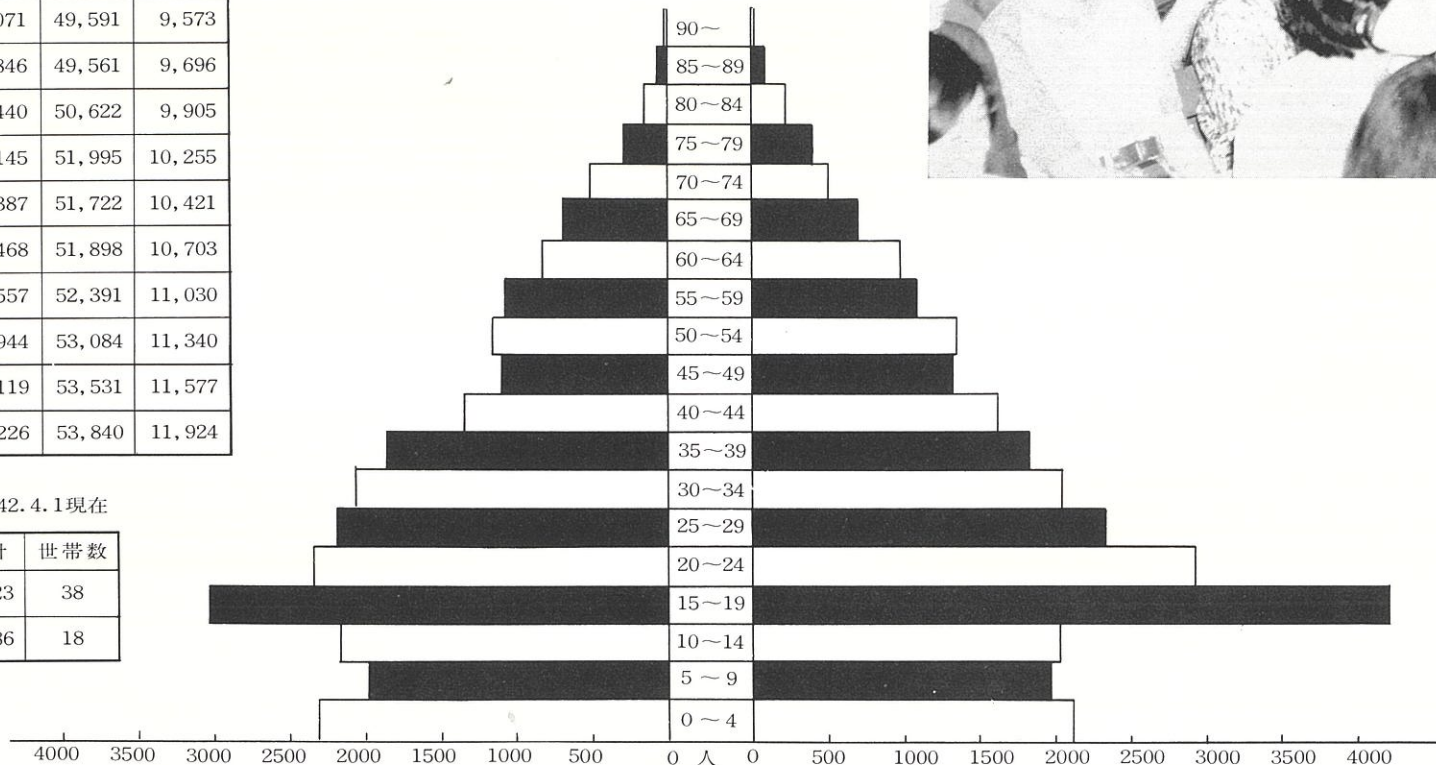
区分 年度	人口			世帯数
	男	女	計	
29年	19,999	22,980	42,979	8,482
30年	20,135	23,078	43,213	8,509
31年	20,262	23,451	43,713	8,534
32年	22,526	27,274	49,800	9,469
33年	22,520	27,071	49,591	9,573
34年	22,715	26,846	49,561	9,696
35年	23,182	27,440	50,622	9,905
36年	23,850	28,145	51,995	10,255
37年	24,335	27,387	51,722	10,421
38年	24,430	27,468	51,898	10,703
39年	24,834	27,557	52,391	11,030
40年	25,140	27,944	53,084	11,340
41年	25,412	28,119	53,531	11,577
42年	25,614	28,226	53,840	11,924

昭和29年4町1村による市制施行時の人口は42,979人、その後32年に小鈴谷町を合併49,800人となった。過去5か年の増加率を見ると自然増が1%、社会増が0.5%となっており、緩慢な増加を示している。

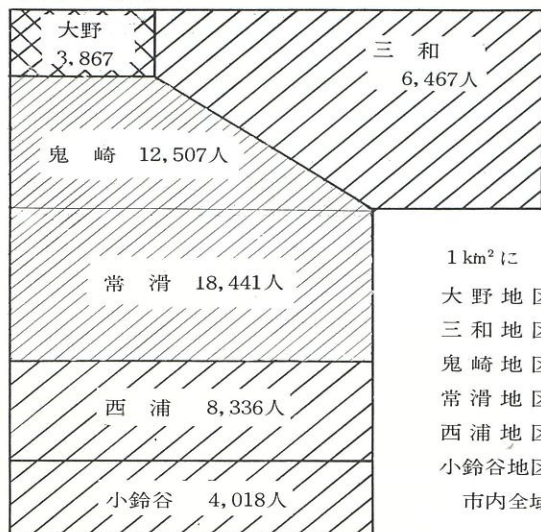


外国人登録数 42.4.1現在

	男	女	計	世帯数
朝鮮	75	48	123	38
韓国	43	43	86	18

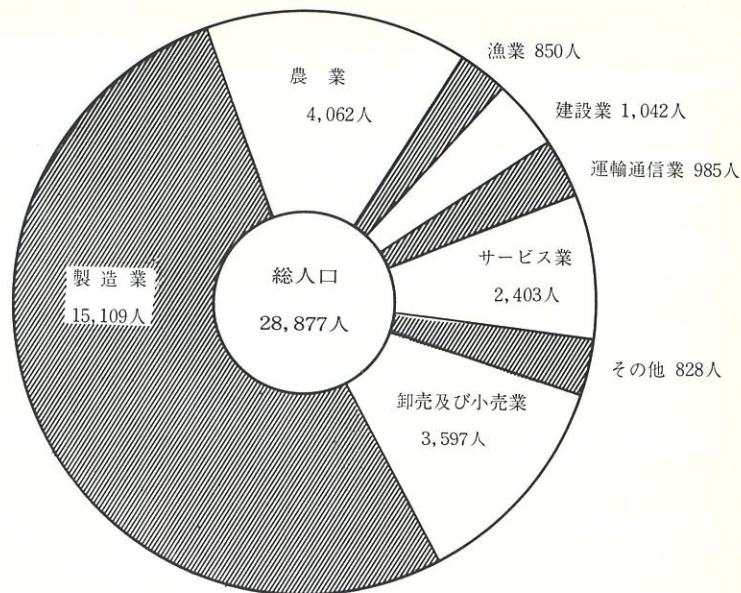


市内地域別人口



1 km²に
大野地区 9,432人
三和地区 396人
鬼崎地区 1,966人
常滑地区 2,224人
西浦地区 891人
小鈴谷地区 550人
市内全域 1,090人

市内産業別人口 (40年国勢調査)

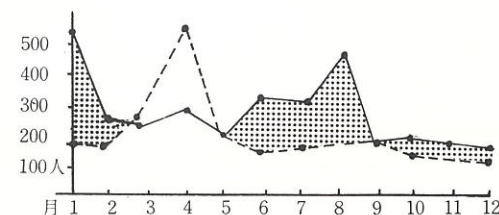


人口の動態

年度	自然増			社会増			その他		
	出生	死亡	増減	転入	転出	増減	婚姻	離婚	死産
35年	852	388	464	3,015	2,106	909	471	32	56
36年	828	391	437	2,812	3,522	△ 710	512	28	86
37年	899	381	518	3,014	3,356	△ 342	463	23	111
38年	893	371	522	2,781	2,810	△ 29	517	22	99
39年	906	392	514	2,707	2,528	179	537	21	86
40年	973	327	646	2,541	2,740	△ 199	450	20	78
41年	830	333	497	2,706	2,894	△ 188	496	21	43

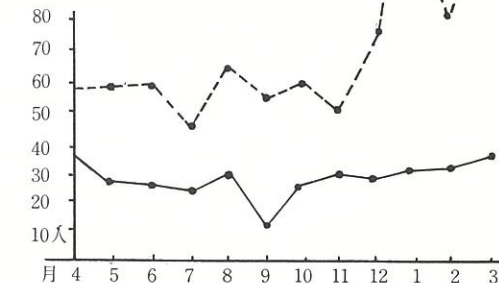
昭和41年

人口社会動態



昭和41年度

人口自然動態

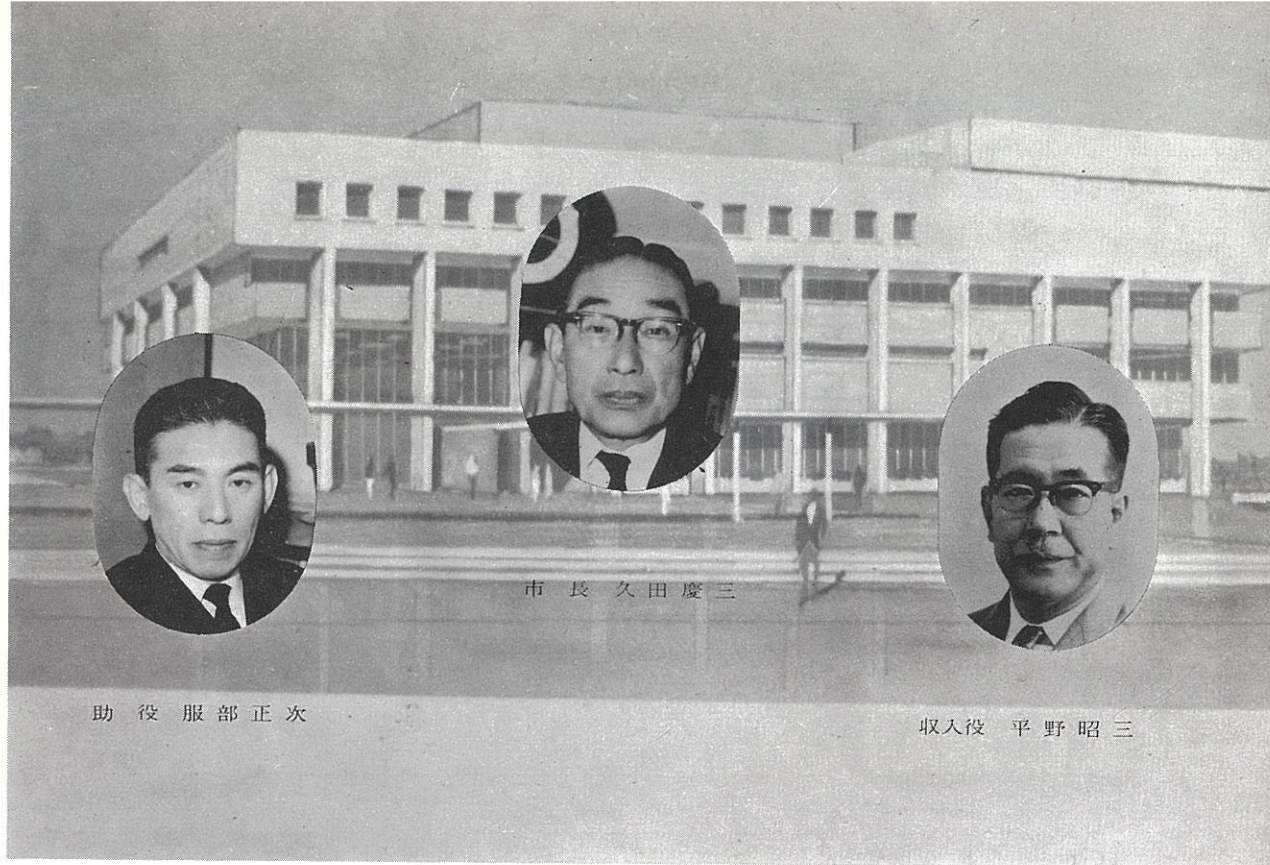


執行機関

市制施行14年を迎える本市は、知多西地方第一の都市としてこの地方における行政、経済、学術および文化の中心をなしている。

明るい市民サービスと言行一致の市政をモットーに、教育文化の振興、道路・港湾の整備拡充あるいは民生の安定また交通安全対策の推進等、住民の福祉向上のため充実した行政がなされている。

市制施行以来の懸案であった新市庁舎の建設は、本年度中に着工されることになり、44年度始めには完成する。



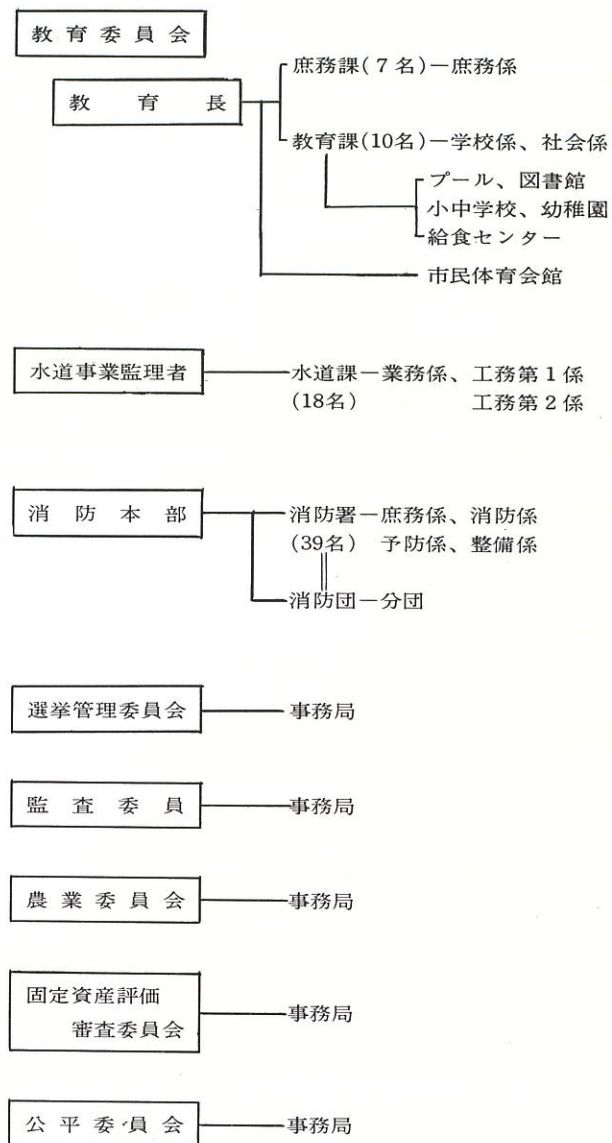
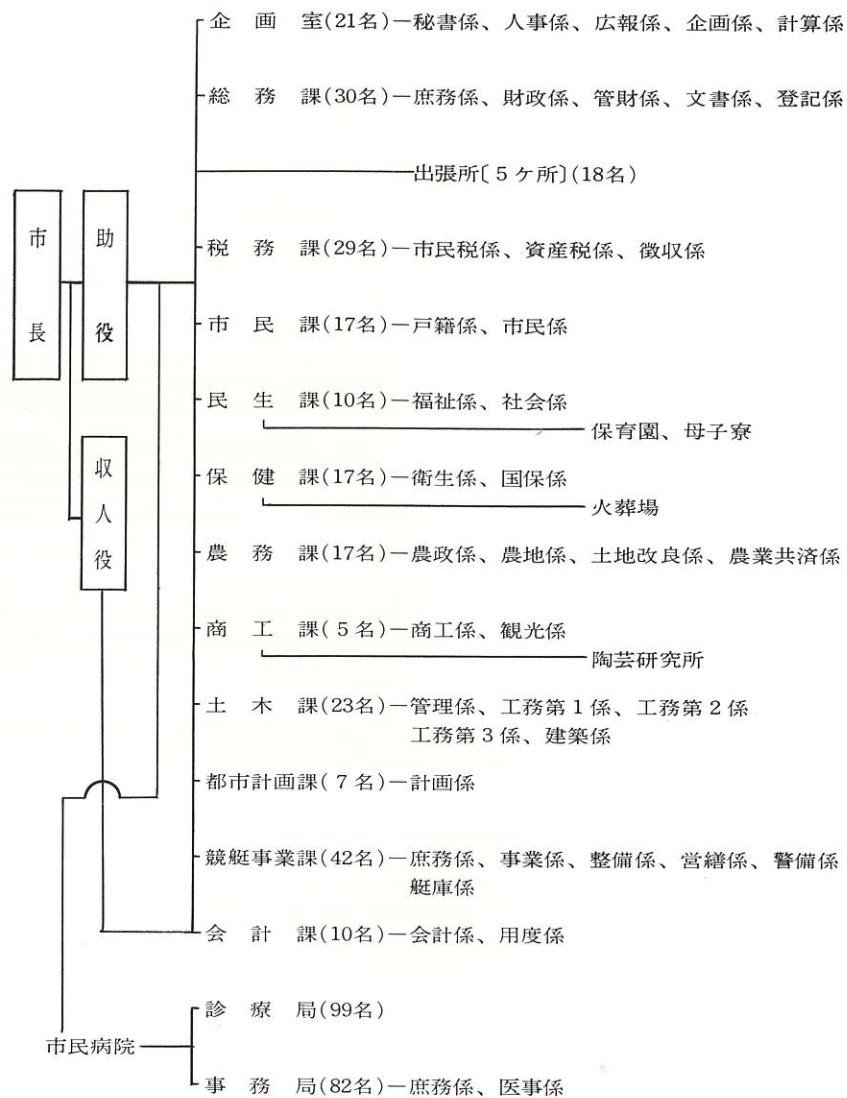
助 役 服 部 正 次

市 長 久 田 慶 三

収入役 平 野 昭 三

歴 代 市 長		歴 代 助 役		歴 代 収 入 役	
氏 名	就 任 期 間	氏 名	就 任 期 間	氏 名	就 任 期 間
伊 奈 長 三 郎	29. 4. 25～30. 3. 5	伊 奈 四 郎	29. 5. 7～32. 1. 21	山 田 滝 一	29. 5. 7～34. 6. 28
滝 田 次 郎	30. 3. 27～34. 3. 26	久 田 慶 三	30. 9. 28～34. 3. 5	平 野 昭 三	34. 6. 29～在 任 中
久 田 慶 三	34. 3. 27～在 任 中	山 田 滝 一	34. 6. 29～38. 6. 28		
		服 部 正 次	38. 10. 25～在 任 中		

行政組織図



議決機関

市の議決機関である市議会は、昭和37年12月定数減少条例を制定して議員定数30名と定め、少数精鋭をもって活発な審議を行なっている。定例会は年4回、常任委員会は総務、土木、経済および文化の4委員会である。



山下治二議長



沢田民四郎副議長

歴代議長		歴代副議長	
八木虎雄	29. 4. 10 ～32. 4. 7	水上義介	29. 4. 10 ～30. 3. 31
杉江達太郎	32. 4. 8 ～33. 4. 3	杉江達太郎	30. 4. 5 ～32. 4. 7
井上建一	33. 4. 4 ～34. 3. 31	井上健一	32. 4. 8 ～33. 4. 3
稲葉民治	34. 4. 2 ～36. 3. 31	山本広志	33. 4. 4 34. 3. 31
久田金蔵	36. 4. 1 ～38. 3. 31	久田金蔵	34. 4. 2 ～36. 3. 31
沢田良蔵	38. 5. 7 42. 4. 29	村上一良	36. 4. 1 ～38. 3. 31
山下治二	42. 5. 8 ～在任中	都築治郎兵衛	38. 5. 7 ～40. 4. 30
		伊奈嘉蔵	40. 5. 1 ～41. 10. 31
		山下治二	41. 11. 1 42. 4. 29
		沢田民四郎	42. 5. 8 ～在任中

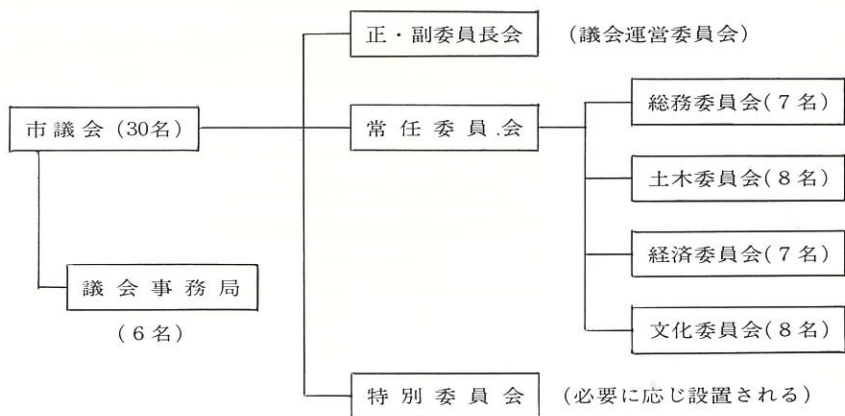
市議会議員

◎常任委員長 ○常任副委員長

議席	氏名	所属委員会	党派別	職業	年令	住所
1	山下治二	総務	無所属	農業	53	常滑市西之口字郷中109
2	沢田民四郎	経済	〃	会社社長	57	〃 樽水字新居95の2
3	関一雄	総務	〃	味噌醤油醸造業	32	〃 字北郷128
4	水野才衛	◎経済	〃	農業	69	〃 蒲池字蒲池郷中103
5	相武喜久四郎	土木	〃	〃	58	〃 多屋字森西105の1
6	村上一良	◎文化	〃	〃	50	〃 矢田字東根組13
7	沢田良蔵	経済	〃	陶管製造業	45	〃 字原松62
8	伊藤好一	◎総務	〃	会社社長	57	〃 大野町字新町北53
9	夏目善男	○文化	〃	農業	50	〃 古場字坪根17の1
10	後藤新平	文化	〃	衣料品小売業	60	〃 大野町字十王61
11	山本弥市	総務	〃	農業	52	〃 広目字前田面28
12	相羽助右工門	経済	〃	製麺業	69	〃 金山字北郷24
13	山本国夫	○経済	〃	会社社長	47	〃 字前田東割47
14	宇藤繁信	○総務	〃	会社員	66	〃 字市場40
15	伊藤九朗	文化	〃	農業	59	〃 榎戸字金荒子226
16	角野和昭	経済	公明党	左官業	38	〃 字土取畑21
17	古川三十郎	文化	無所属	無職	59	〃 字平井口51の33
18	関豊輔	土木	〃	代表社員	43	〃 字中郷93の15
19	田中義雄	文化	〃	消費生活協同組合役員	55	〃 西阿野字唐崎159
20	入山律二	総務	〃	農業	56	〃 松原字平井畑35
21	古川五郎	土木	〃	会社員	45	〃 熊野字下奥海道11
22	竹内利幸	○土木	〃	農業	47	〃 金山字平井106
23	庭瀬健太郎	土木	日本共産党	政党役員	35	〃 字野間口33
24	山田竹士	文化	無所属	会社社長	45	〃 字口田46の5
25	土井太郎	◎土木	〃	無職	57	〃 西阿野字忠田43の3
26	盛田亮一	土木	〃	亜炭販売業	63	〃 大谷字浜条125
27	水野利三	文化	〃	会社常務取締役	43	〃 字鯉江新開9
28	相羽友弥	土木	〃	代表社員	44	〃 字北屋敷128
29	井上高二	総務	〃	会社員	47	〃 多屋字山際38
30	加藤重三	経済	〃	旅館業	55	〃 大野町字洲岬4



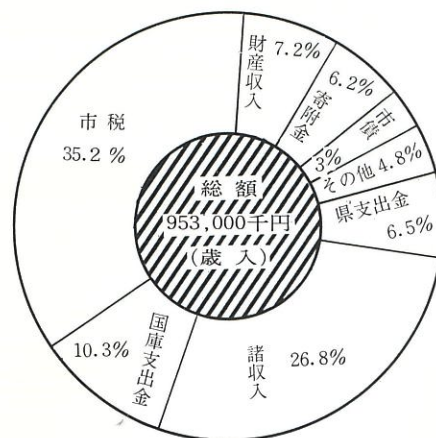
市議会の構成



議会活動状況

年 別	回 数			会 期 日 数	出 席 率 %	議 事 内 容					審 議		請 願	
	定 例	臨 時	計			条 例	予 算 決 算	選 挙 其 他	計	原 案 可 決	修 正 可 決	採 択	不 採 択	計
34	4	6	10	15	89.8	24	34	3	48	109	106			
35	4	6	10	14	86.2	20	43	3	51	117	114		1	1
36	4	7	11	18	83.1	28	45	3	63	139	136		1	1
37	4	4	8	15	88.3	21	51	4	59	135	127	3		
38	4	2	6	48	93	23	40	6	61	130	123		3	3
39	4	3	7	53	96.6	51	41	2	36	130	127	4		4
40	4	4	8	31	96.9	32	41	5	35	113	108	4	1	5
41	4	4	8	38	97.1	29	39	8	41	117	108	1	6	6

42年度歳入予算額



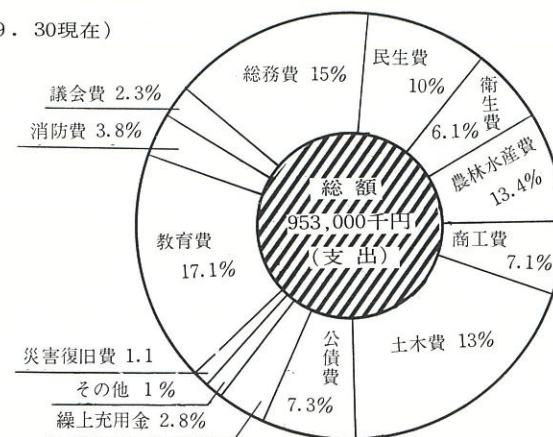
昭和41年度の決算規模は、歳入12億2,145万8千円、歳出12億5,474万5千円となり3,328万7千円の赤字決算となった。

赤字の要因は、主として市税の極端な伸び悩みと土地売却収入の歳入欠かんによるものである。しかし歳出面においては、市民の待望久しかった市民体育会館の完成をはじめとする学校校舎・施設の整備拡充等教育関係、市営住宅・保育園改新築に見られる民生関係さらに前年に引き続き道路改良、港湾整備等土木建設関係への投資など極めて充実した内容となっている。

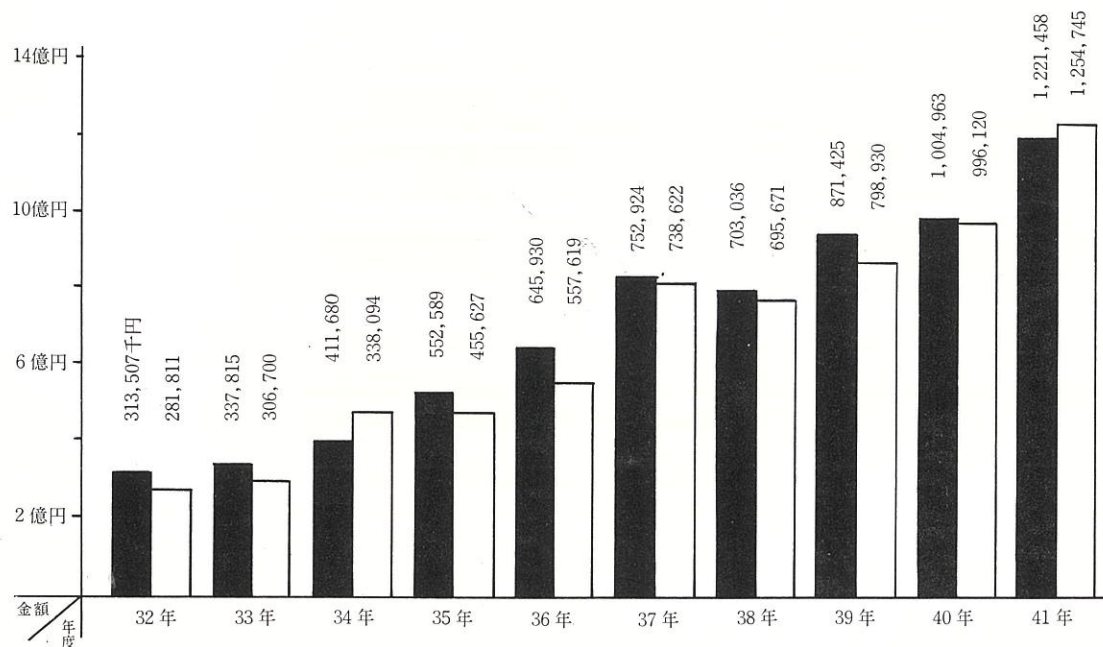
顧りみれば昭和32年度を基準年度100として10年後の今年度は歳入において390、歳出においては445と著しい増加となっている。

42年度歳出予算額

(42. 9. 30現在)



一般会計10年のうつりかわり



特別企業会計当初予算 (41年42年比較)

事業	区分	当 初 予 算		増 減 比 較 (△印減)
		昭和42年度	昭和41年度	
特 別	競 艇 事 業	3,092,100,000	2,225,067,000	867,033,000
	国民健康保険事業	174,727,000	137,362,000	37,365,000
	農 業 共 済 事 業	13,533,000	11,854,000	1,679,000
	陶芸研究所事業	5,436,000	5,656,000	△ 220,000
企 業	市民病院事業	336,383,000	264,020,000	72,363,000
	上 水 道 事 業	141,420,000	125,434,000	15,986,000



市税収入状況 (昭和40年41年比較) 各年 5 月 31 日

税 目	41 年 度				40 年 度			
	予 算 額	調 定 額	収 入 額	調定額に対する 収 入 率	予 算 額	調 定 額	収 入 額	調定額に対する 収 入 率
市 民 税	162,777,000 ^円	170,359,214 ^円	158,270,846 ^円	92.9 %	159,635,000 ^円	169,067,981 ^円	160,889,004 ^円	95.1 %
固 定 資 産 税	137,262,000	147,866,164	139,629,488	94.4	132,414,000	140,432,231	133,128,737	94.7
軽 自 動 車 税	11,738,000	13,305,170	12,603,396	94.7	10,582,000	11,546,250	11,005,730	95.3
た ば こ 消 費 税	37,824,000	37,331,580	37,331,580	100.0	36,046,000	35,964,790	35,964,790	100.0
電 気 ガ ス 税	45,505,000	45,621,120	45,621,120	100.0	42,034,000	42,050,933	42,050,933	100.0
都 市 計 画 税	13,530,000	14,578,060	1,373,998	94.2	11,491,000	12,728,978	11,999,868	94.2
旧 法 に よ る 税	1,000	34,210	1,650	4.8	4,000	37,210	400	1.0
合 計	408,637,000	429,095,518	407,196,078	94.8	392,206,000	411,828,373	395,039,462	95.9

市税負担状況 (単位 円)

区 分 税 目	昭 和 41 年 度			昭 和 40 年 度			昭 和 39 年 度		
	収 入 済 額	1 世帯当り	1人当り	収 入 済 額	1 世帯当り	1人当り	収 入 済 額	1 世帯当り	1人当り
市 民 税	158,270,846	13,671	2,956	160,889,004	14,187	3,030	135,351,375	12,291	2,581
固 定 資 産 税	139,629,488	12,060	2,608	133,128,737	11,739	2,507	126,536,063	11,490	2,413
軽自動車税	12,603,396	1,088	235	11,005,730	970	207	9,292,980	843	177
たばこ消費税	37,331,580	3,224	697	35,964,790	3,171	677	33,305,890	3,024	635
電気ガス税	45,621,120	3,940	852	42,050,933	3,708	792	39,357,934	3,574	750
都市計画税	13,737,998	1,186	256	11,999,868	1,058	226	10,972,940	996	209
旧法による税	1,650			400			10,938		
計	407,196,078	35,170	7,604	395,039,462	34,833	7,439	354,828,120	32,218	6,765

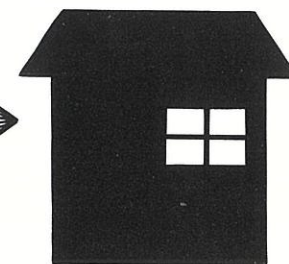
42年度予算のうち
市税1人当り負担額
42.9.30現在



42年度市総予算の1人当り
21,944円

3,121円	市 民 税	13,983円
2,481円	固 定 資 産 税	11,114円
227円	軽 自 動 車 税	1,015円
721円	た ば こ 消 費 税	3,316円
799円	電 気 ガ ス 税	3,572円
249円	都 市 計 画 税	1,115円
0.02円	そ の 他	0.08円
7,616円	合 計	34,124円

42年度予算のうち
市税1世帯当り負担額
42.9.30現在

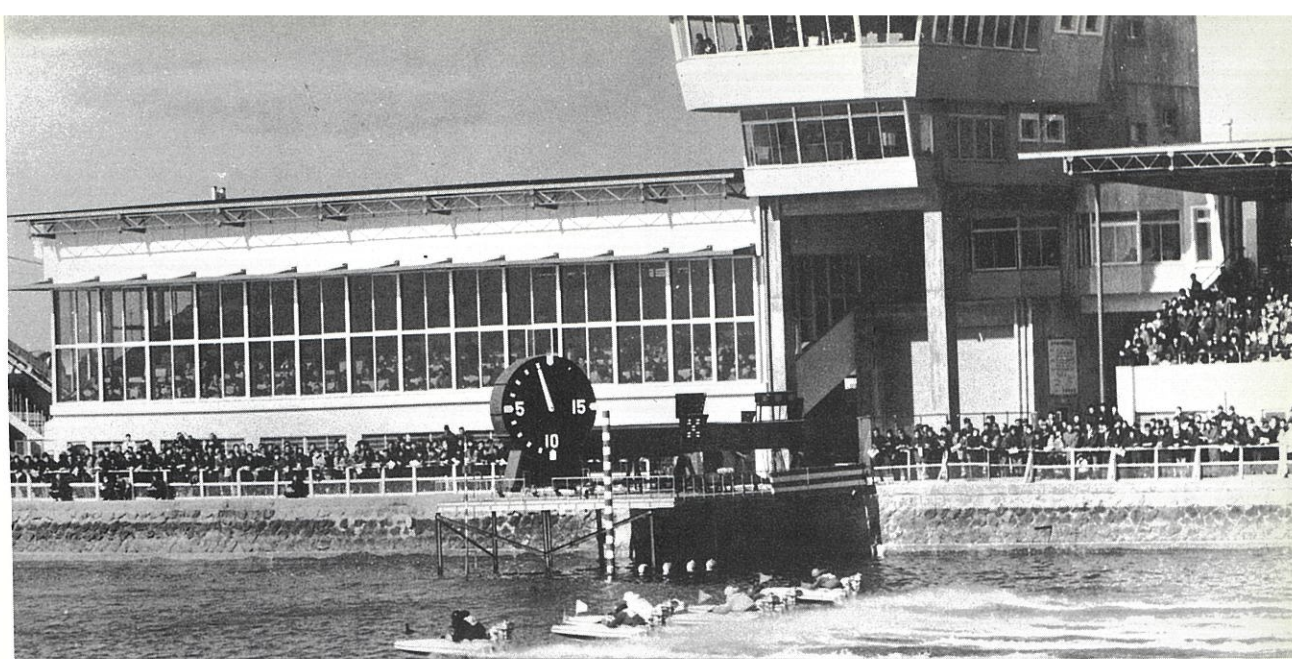


42年度市総予算の1世帯当り
99,085円

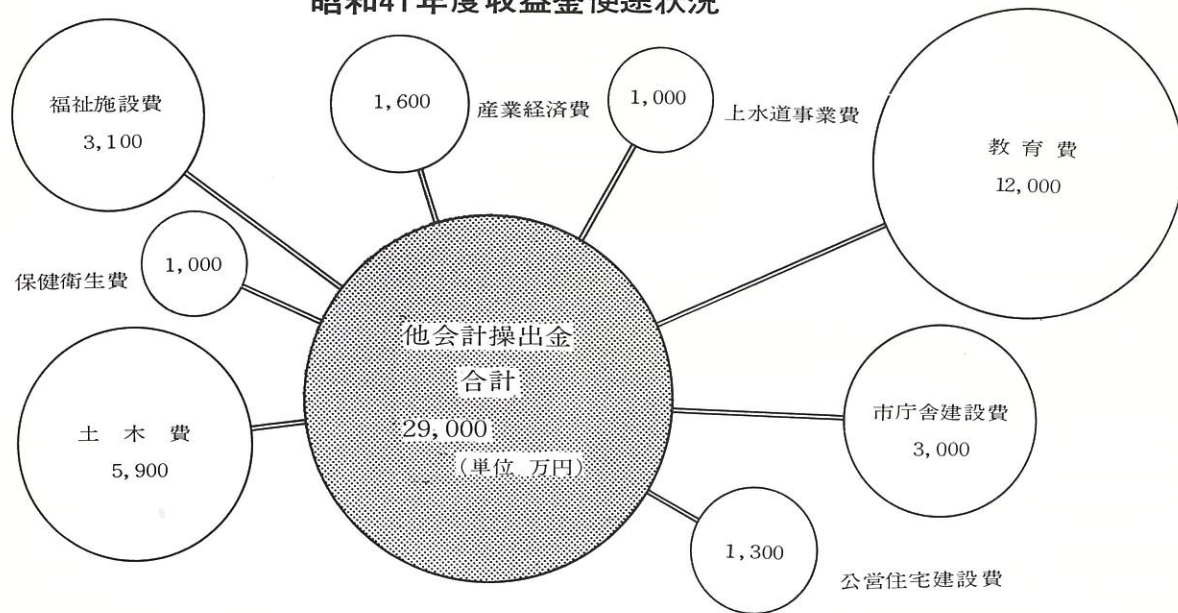
競艇事業

艇事業開始当時には「キャンブル廃止」の呼び声があったにもかかわらず競艇場はファンでいっぱい。年々増加するファンに不景気どこ吹く風といったところ。競艇の社会悪云々はともかく競艇事業の収益金は市財政に大きく寄与している。

常滑競艇が開始されたのは昭和28年3月合併前の常滑、鬼崎、西浦、大野の旧4町の施行組合で認可を受け同年7月からレースを開始し、29年4月市制施行と同時に市営となった。当時市財政窮乏のうえに昭和34年には伊勢湾台風であとかたもないという大被害を受けたがファンの要望に応じて直ちに復旧した。それから8年レース開始からは14年、41年3月までの収益金は6億4千万円に達し、学校の改築、公民館の建設、昨年の市民体育会館の建設と市財政は活気づき本市発展の大きな資源ともなっている。ちなみに41年度は2億9千万円の市財政への繰り入れをし、レース場自体も鉄筋の近代建築に改造し、健全なレクリエーションの場として、ファンの要望に応じている。



昭和41年度収益金使途状況



工 業 市の中心部には大小の製陶工場がひしめいており、全国的に陶器の町として知られている。この常滑焼は遠く平安時代から良質の陶器の産地として伝統を誇り安政年間にはじまった朱泥（しゅで

い）はそのさびた色のはだ合いと穏和な光が広く海外にまでもてはやされる当市独特の産物である。

明治以後、この朱泥に土管などの建築陶器が加わり、現在は衛生陶器・タイル・建築ブロック等をはじめとして装飾および芸術品あるいは玩具、日用生活品など、はば広く生産されている。とくに陶管はわが国最大の生産量を誇っている。

平安鎌倉の穴窯時代に制作されたダイナミックな古常滑は、今また優れた陶芸作家の輩出によりわが国陶芸界で高く評価されている。

昭和36年設立開館された市立陶芸研究所は、伝統陶芸の保持、陶芸作家の育成等陶芸振興に大きな貢献をし、また常滑陶器館は窯業のPR、陶磁器製品の展示即売を行い隣接の陶磁器関係各協同組合と合わせてセンターとしての機能を果たしている。

また創設以来、窯業技術の指導研究機関として親しまれてきた愛知県陶磁器試験場は、その名も愛知県窯業技術センターとして市内三ツ池地内に約二億円を投じて近代的な施設が建設されることになり、一層の期待が持たれている。

このほか市の南、北部は知多木綿の産地として多くの織布工場があり、また知多の酒で知られる醸造業も活発である。







陶芸家

本市在住の陶芸作家を紹介している「陶芸作家名鑑」には、全国的に著名な各陶芸展に入選歴をもつ作家24名を挙げている。

伝統的作法である『紐作り』(ロクロを使わず円形の甕「かめ」などをつくる)はその技術を長く残したいふしぎな作法の一つである。

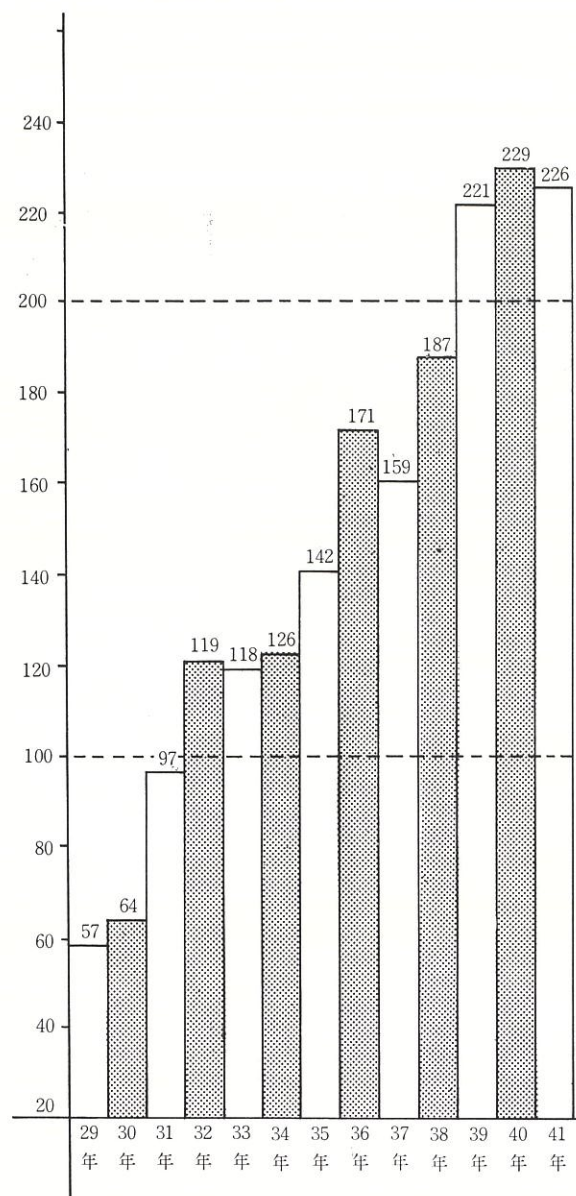
業種別生産状況

41. 12. 31 現在

種 別	事業 所数	従業員数	生 産 額			加 工 費	生産 率%
			出 荷 額	在 庫 額	計		
陶 磁 器	470	8,539人	1,083,191 ^{万円}	92,647 ^{万円}	1,175,838 ^{万円}	20,980 ^{万円}	54.3
紡 織	104	3,044	506,208	9,943	516,151	55,427	23.8
食 料 品	44	496	161,596	3,901	165,497	4,225	7.6
機 械	15	346	63,411	1,503	64,914	3,497	3.0
鍛 工 品	34	708	142,355	5,324	147,679	9,174	0.5
箱	16	246	48,534	474	49,008	251	6.8
製 材	10	61	11,289	110	11,399	384	0.6
建 具	11	41	3,141	0	3,141	1,301	2.3
印 刷	3	72	9,118	3,392	12,510	210	0.1
そ の 他	17	135	20,799	306	21,105	240	1.0
合 計	724	13,688	2,049,642	117,600	2,167,242	95,689	

単位
億円

工業生産13年間のうつりかわり



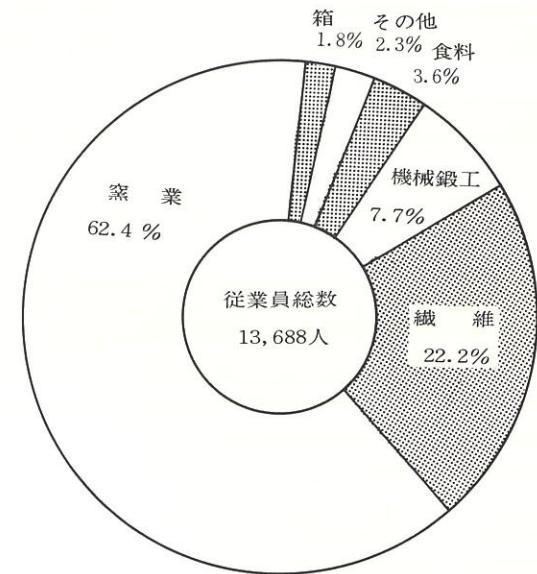
陶磁器の種別生産状況

41. 12. 31現在

種 別	事業所数	従業員数 人	生 産 額			加 工 費	生産率 %
			出 荷 額	在 庫 額	計		
陶 管 ・ か め	119	1,086	135,206	8,582	143,788	443	12.2
ブロック流し浴槽	10	176	27,779	2,330	30,109	4,710	2.6
タイルモザイククリンカー	24	2,663	409,823	48,024	457,847	922	38.9
衛 生 陶 器	28	1,794	195,001	27,084	222,085	2,149	18.9
卓上用陶磁器	25	569	64,812	1,640	66,452	795	5.7
装 飾 及 芸 術 品	11	186	28,017	860	28,877	0	2.5
陶 製 玩 具	77	794	94,671	1,826	96,497	6,986	8.2
茶 器 急 須	33	121	8,103	77	8,180	8	0.7
植 木 鉢	76	544	52,474	1,534	54,008	531	4.6
厘 鉢	6	78	11,523	134	11,657	118	1.0
石 膏 製 品	20	122	7,991	8	7,999	1,258	0.7
粘 土 釉 薬	21	216	36,552	57	36,609	1,166	3.1
そ の 他	20	190	11,239	491	11,730	1,894	0.9
計	470	8,539	1,083,191	92,647	1,175,838	20,980	

工業従業員生産別割合

41. 12. 31 現在



織物種別生産状況

41. 12. 31 現在

種 別	事業所数	従業員数 人	生 産 額			加 工 費	生産費
			出 荷 額	在 庫 額	計		
紡 績	3	1,082	226,640	1,309	227,949	2,262	44.2 %
綿・スフ・ガーゼ	77	1,456	198,065	4,841	202,906	44,202	39.3
綿 麻 ロ ー プ	6	32	3,314	120	3,434	334	0.7
染色サイジング	3	38	964	0	964	913	0.1
シャツ・靴下・その他	15	436	77,225	3,673	80,898	7,716	15.7
計	104	3,044	506,208	9,943	516,151	55,427	



商 業

近年商店街単位で組織的な経営へと活動を始めている一部商店街では、名実ともに近代的な商店街づくりにとすでに資金の積立をはじめなど、近代経営に組みかえるべく合理的な商店経営の研究指導がなされている。このほか関係業者の協同化も進んでおり、これ等をあわせ目下構想が練られている常滑駅前広場整備が実施されれば近代商店街が実現するものと期待されている。

別に業態から見ると、市主産業の関係からやはり陶磁器販売が全体の31%で他を引き離している。陶磁器販売業者が協力開催する常滑焼見本市は全国の業者が集まりにぎわいを見せる。



商業種類別調

昭和41年7月1日現在商業統計

業種別	区分	商 店 数	従業者数	販 売 額	在 庫 額
陶 磁 器		45	466	297,333	28,278
菓 子 パ ン		174	408	44,460	3,119
野 菜 果 物		70	215	35,896	3,705
鮮 魚		21	64	6,796	156
肉		27	66	13,362	352
酒 ・ 調 味 料		60	190	90,561	6,017
米		22	65	44,783	1,615
そ の 他 食 料 品		23	62	7,867	656
飲 食 店		95	246	18,224	—
呉 服 服 地		100	342	89,456	20,023
履 物		27	54	7,709	1,620
自 動 車 ・ 自 転 車		42	123	23,608	3,472
電 気 器 具		35	103	27,240	4,116
機 械 器 具		10	33	13,051	1,754
洋 品 雑 貨		7	16	2,018	345
医 薬 品 ・ 化 粧 品		50	106	25,796	5,650
石 油 ・ 石 炭		29	167	89,582	10,058
金 物 ・ 荒 物		27	73	16,290	3,528
文 房 具		23	129	22,454	4,029
時 計 ・ カ メ ラ		19	43	4,712	2,256
タ バ コ		35	59	12,173	1,015
家 具 ・ 建 具		34	83	12,041	2,256
肥 料		8	36	31,242	1,207
そ の 他		64	200	20,841	2,537
合 計		1,047	3,349	957,494	108,445



本町商店街七ツまつり



常滑焼総合見本市



市場商店街



大野商店街

農 業

市内東部の丘陵地は農地として利用されている。昭和36年通水した愛知用水は、これまで溜池、小河川にたよった当地の農業を一変させた。台風など災害時をずらし、雨期を待たず作付けできるなどから矢田、前山地区の農業構造改善事業に見られるように機械化等農業経営近代化施設を導入して省力栽培が行なわれている。しかしながら耕地面積は通水により造成されたが一方、工場、住宅への農地転用により耕地面積は増加していない現状である。全国的な傾向にある、農業従事者の減少は、本市においても同様であるが、農家数は現状を維持、兼業農家は依然兼業が行なわれ自主農家は米作を主体に、家畜、養鶏、園芸のうち一つを加えて経営規模を拡大し、施設の近代化と農業労働力の合理化を進めると共にこれら農産物、とくに生鮮食料品の販売流通機構の整備統合に努めて農業所得の向上を計っている。

農業生産額は別表のごとく、米生産が第1位、畜産が第2位、次に野菜、果物の順となっている。これらのうち果物は“みかん”であり、花卉は名古屋市場に向けられている。市合併発足に伴い推進されていた農業共同組合の合併は6組合となったが、農家へのサービスと営農の向上を期して合併推進協議会が組織されている。

経営規模別農家数 昭和41年

0～0.3 ^{ha}	0.3～0.5 ^{ha}	0.5～0.7 ^{ha}	0.7～1 ^{ha}	1～1.5 ^{ha}	1.5～2 ^{ha}	2～2.5 ^{ha}	2.5～3 ^{ha}	3～3.5 ^{ha}	その他	合 計
743 ^戸	619 ^戸	449 ^戸	430 ^戸	301 ^戸	74 ^戸	15 ^戸	3 ^戸	0 ^戸	57 ^戸	2,691 ^戸

農耕地利用状況

田			普通畑	樹 園 地		合 計
一 毛 作	二 毛 作	計		果 樹 園	茶 園	
1,040 ^{ha}	17.8 ^{ha}	1,057.8 ^{ha}	401.9 ^{ha}	42 ^{ha}	0.9 ^{ha}	1,502.6 ^{ha}

家畜飼育頭数

乳 牛	役 肉 牛	豚		山 羊	にはとり	兎
		肉 豚	種 豚			
312 ^頭	104 ^頭	510 ^頭	292 ^頭	55 ^頭	190,000 ^羽	90 ^羽

常滑農協会館

農業生産額 昭和41年度

種 別	生産規模	生産量	生産額 ^{千円}
米	1,050 ^{ha}	3,990 ^t	461,802
麦 類	185	498	25,491
い も 類	210	2,992	31,440
豆 類	13	64	2,170
野 菜 類	200	6,053	144,010
果 物 類	65	1,221	85,180
花 卉 類	59,400 ^{m²}		40,350
畜 産 物			450,018
計			1,240,461





矢田農業協同組合選卵場

市内農業協同組合の樹況

昭和42年 8 月 現在

項目 組合名	組 合 所 在 地	支 所 数	正組合 員戸数	組 合 員 数			役 員 数			職 員 数		自己資本	固 定 資 産		貯 金 総 額	共済事業 契 約 高
				正	準	計	理 事	内 常 勤	監 事	総 数	内 女 子		固定資産	外部出資		
矢 田	矢田字西根組22	—	戸 331	人 405	人 49	人 454	人 7	人 1	人 3	人 15	人 5	千円 20,626	千円 23,699	千円 5,113	千円 338,494	万円 41,810
久 米	久米字東郷24の1	—	212	219	68	287	7		3	8	2	12,980	13,229	3,975	220,339	29,905
前 山	金山字平井129	—	253	259	64	323	7	1	3	8	3	12,581	20,045	4,068	186,482	60,438
鬼 崎	榎戸字浜田71	3	670	1,075	1,298	2,373	13		4	33	18	40,562	26,893	11,590	920,439	93,965
常滑市	字南屋敷72	8	1,145	1,345	3,623	4,967	22	3	5	109	50	201,369	170,770	32,060	4,437,225	399,321
西 浦	熊野字中ノオミ29の3	3	443	447	412	859	11	1	3	16	6	19,093	18,470	7,627	543,964	68,688
計		14	3,054	3,749	5,514	9,263	67	6	21	189	84	307,211	273,106	64,433	6,646,943	694,127

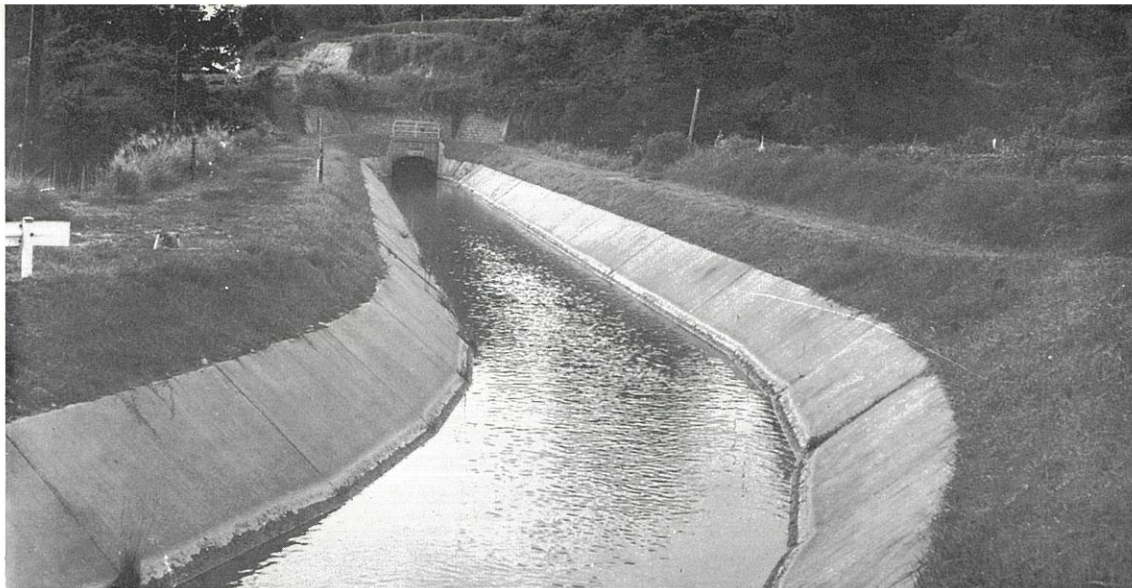
愛知用水

昭和36年10月に通水した愛知用水は、本市の東部を幹線水路が縦断し当地方の水源となって干害のない豊かな土地へと一大改革をもたらした。本市を通るこの幹線水路からは27本の支線によって農業用水が導入され、田約800 ha、畑約250 haが受益地となっている。さらに上下水道の大きな水源としてその価値は大きい。

水産業

本市の漁業は伊勢湾が対象で、長い海岸線に沿って北から大野、鬼崎（蒲池・榎戸）荻屋の漁港と常滑港を有し、沖合の各所に人工築磯を設け、伊勢湾内有数の漁業地である。全国のモデルケースとなっている樽水海岸のコンクリートパイル防波柵、鬼崎漁港の湛水畜養場は有名であり、近年はとくに「のり」の養殖が盛んである。

愛知用水幹線水路



のりそだ

漁業協同組合別水揚げ高

昭和41年度

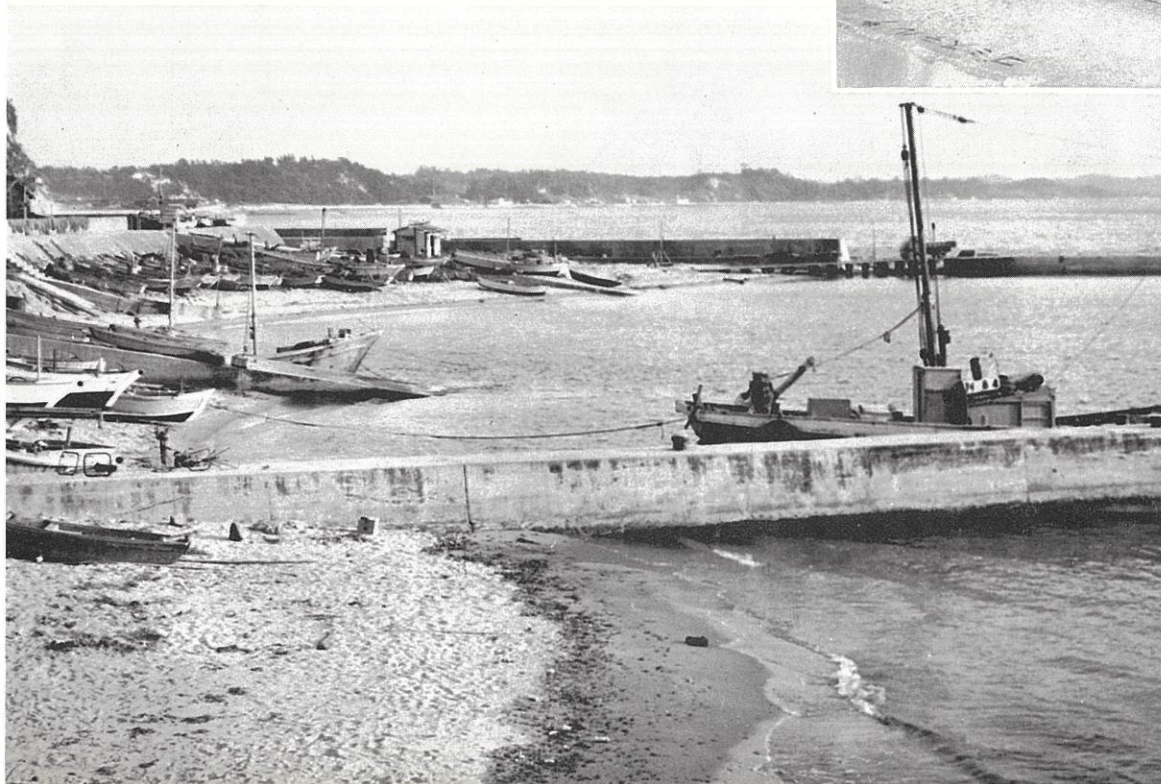
組合別		類別	魚 類	貝 類	の り	そ の 他	計
常 滑	数 量		183,093 ^{kg}	335,013 ^{kg}	7,745 ^{千枚}	640 ^{kg}	
	金 額		42,719 ^{千円}	7,035	114,695	320	164,769 ^{千円}
鬼 崎	数 量		148,360	1,130,420	9,679	193,440	
	金 額		21,655	23,377	112,041	45,409	202,482
大 野	数 量		2,520	73,560	1,872		
	金 額		2,667	1,226	18,586		22,479
小 鈴 谷	数 量		10,860	6,000	8,116	43,000	
	金 額		2,342	85	89,857	2,580	94,864
合 計	数 量		344,833	1,544,993	27,412	237,080	
	金 額		69,383	31,723	335,179	43,309	484,594

漁 港

鬼崎漁港は市内北部の漁業基地であり新鮮な魚市場として活況を呈している。漁港にある畜養場は主に「エビ」「うなぎ」が養殖され、養殖漁業のモデルケースとして注目されている。

市内南部苅屋漁港は昭和39年から7か年計画1億9,500万円をもって漁港築造中で昭和46年に完成が予定されている。

苅屋漁港



鬼崎漁港



鬼崎かん水畜養場

鬼崎漁業組合かん水畜養施設は春先には“マス”夏までは“うなぎ”そして10月中頃から“エビ、カニ”が主体で畜養されている。

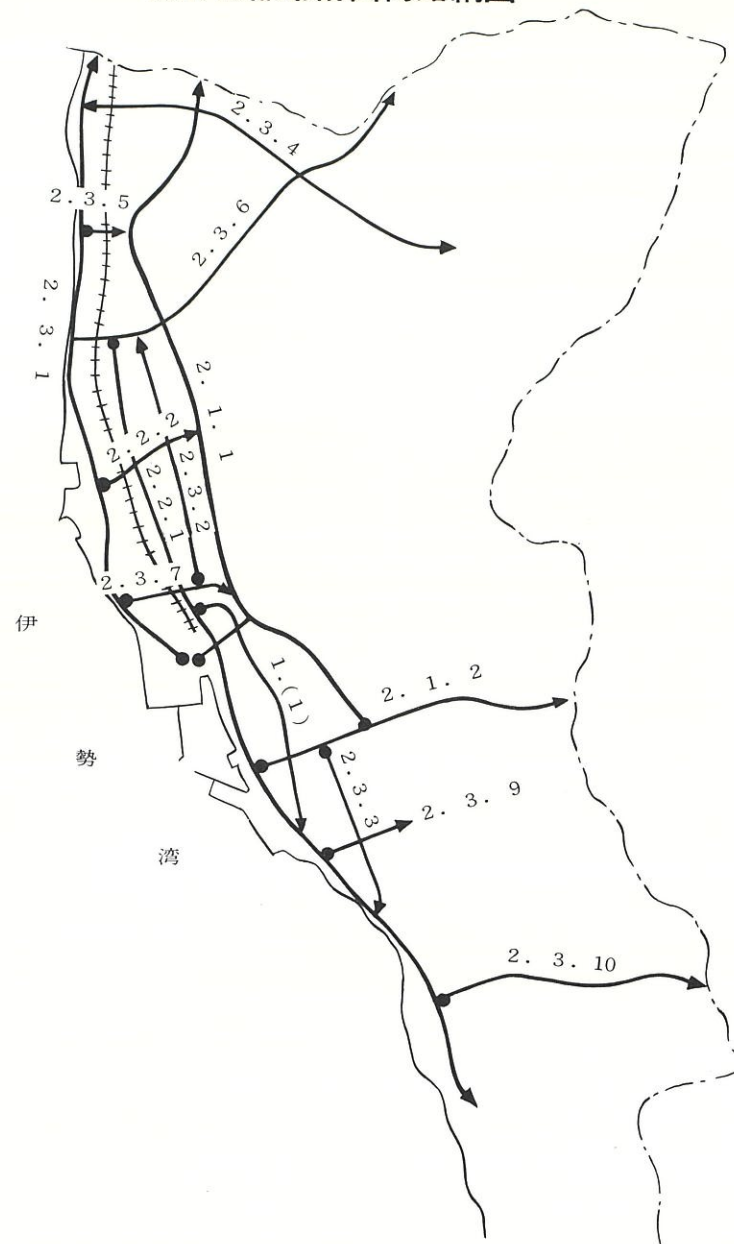


都市計画

明るく住みよい常滑市を……

本市の都市計画は、市制施行前の昭和27年7月1日常滑、西浦および鬼崎の三町、人口3万人を対象区域として制定されたが、その後29年市制を施行、更に広域の都市計画が樹立された。このうち都市計画街路は昭和31年8月11日認可決定されたが以後流動する地域社会の変化に対応し、市を縦断する国道のバイパス線の決定など部分変更を加え、現在山手線ほか15路線総延長47,810mが計画されている。これらの路線のうち、浜田線(Ⅱ.3.7)は昭和40年度から5か年計画事業として差工され、また大野久米線(Ⅱ.3.4)は昭和42年度に着工される等この都市計画にもとづく街路事業は計画的に著々と施行されている。また土地利用計画にもとづく用途地域の指定を受け、さらに広域計画の必要性から愛知県新地方計画にもとづく知多広域開発を基盤とした総合的な計画を推進している。

常滑市都市計画街路網図



完成した環状1号線(2.1.1.)

都市計画街路明細

街路番号 等級 類別 番号	街路名称	巾 員	延 長
2 1 1	山 手 線	20 m	6,670 m
2 1 2	常 半 線	20	2,350
		16	1,410
		計	3,760
2 1 3	北 条 線	20	650
		22	220
		計	870
2 2 1	南 北 線	16	4,640
		18	1,580
		12	1,930
		計	8,150
2 2 2	鬼 崎 港 線	16	950
		20~23	350
		計	1,300
2 3 1	海 岸 線	12	3,710
		16	2,430
		計	6,140
2 3 2	常 東 線	12	2,380
2 3 3	常 西 線	12	1,930
2 3 4	大野久米線	12	3,580
		16	150
		23	190
		計	3,920
2 3 5	青 海 山 線	12	370
2 3 6	鬼 崎 三 和 線	12	3,780
2 3 7	浜 田 線	12	1,300
2 3 8	瀬 木 線	12	1,170
2 3 9	樽 水 線	12	790
2 3 10	桧 原 線	12	2,880
1 小 1	中 央 線	8	2,400

公 園

市東部の丘陵地にある小高い山は伊勢湾を見おろす眺望の地としてハイキング、憩いの場として市民に親しまれているが、近年福祉行政の重点施策が行なわれ、市街地に公園づくりが進んでいる。奥条地内にある常石公園はその一つで常石神社境内を利用し遊歩を造成休憩所のあづまやをつくるなどりっぱな公園ができている。



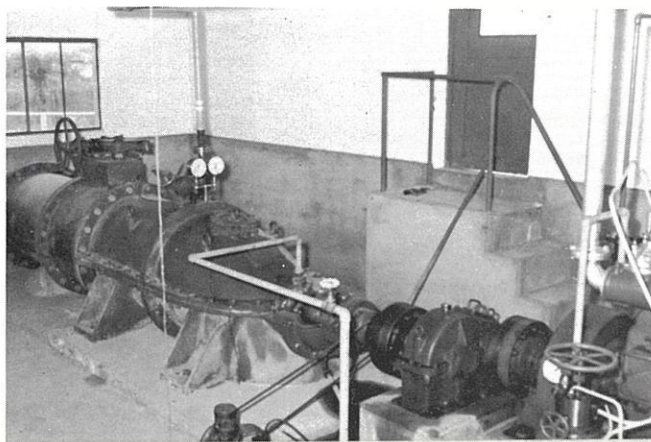
常 石 公 園



山 方 御 嶽 公 園

都市排水

13号台風、集中豪雨、伊勢湾台風で多大の被害を受けた本市は排水施設の系統的充実に計り市民生活向上を目指して常滑、多屋、小倉地内に排水場、排水路を施工した。

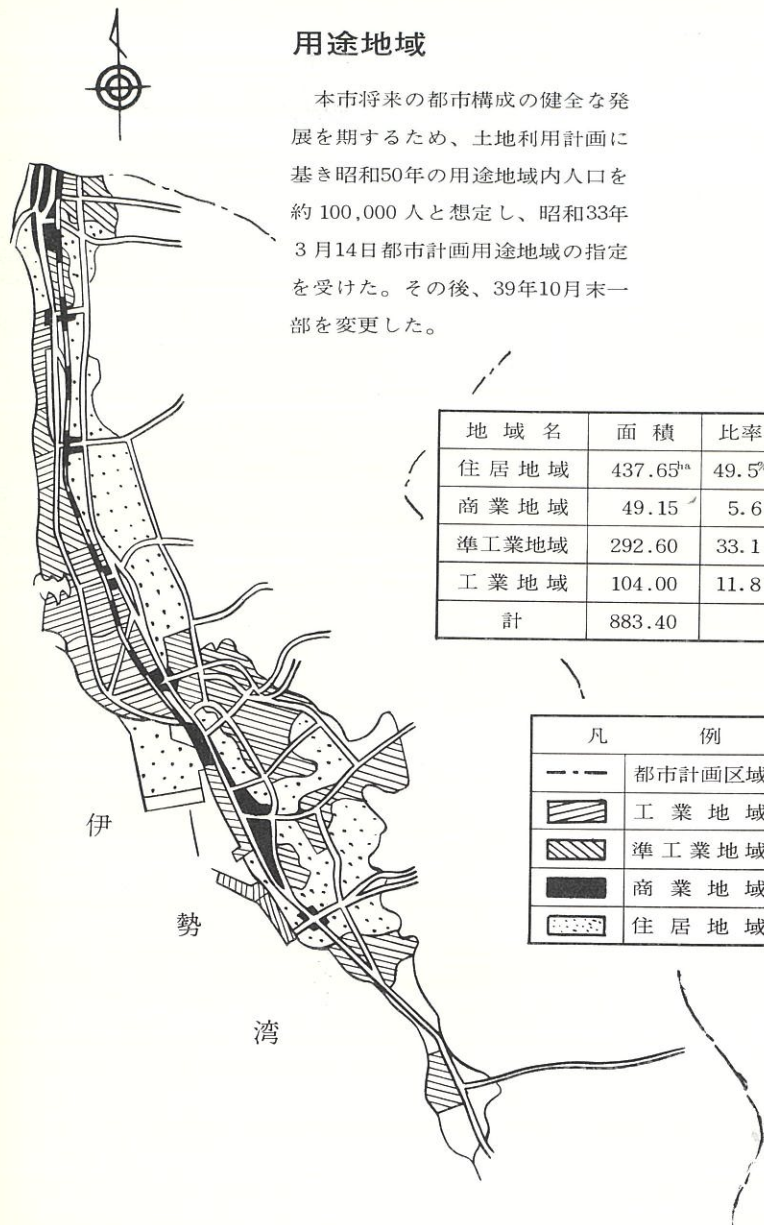


用途地域

本市将来の都市構成の健全な発展を期するため、土地利用計画に基き昭和50年の用途地域内人口を約100,000人と想定し、昭和33年3月14日都市計画用途地域の指定を受けた。その後、39年10月末一部を変更した。

地域名	面積	比率
住居地域	437.65 ^{ha}	49.5%
商業地域	49.15	5.6
準工業地域	292.60	33.1
工業地域	104.00	11.8
計	883.40	

凡	例
---	都市計画区域
	工業地域
	準工業地域
	商業地域
	住居地域

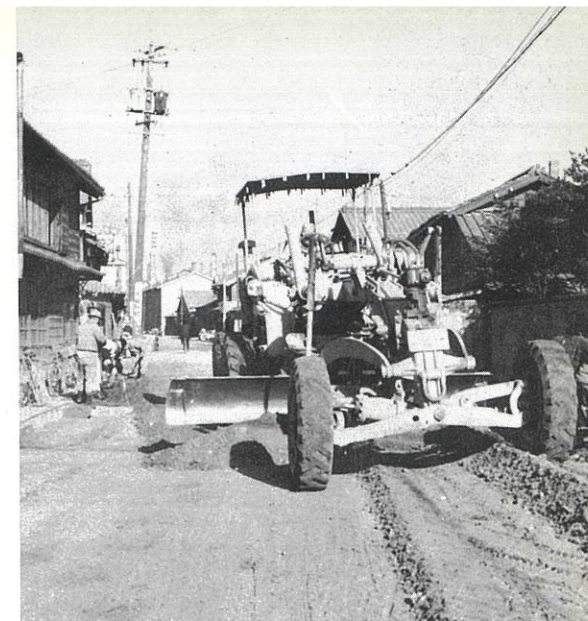


土地造成開発

知多半島海岸部は風波による浸蝕と地盤の沈下により、土地が失なわれていたが、これらの失地回復に海岸の埋立造成事業が行なわれ、すでに鯉江新開地先海面182,044 m^2 、常滑港北側の入江48,118 m^2 、保示樽水地先海面176,746 m^2 が完成した。さらに土地開発は丘陵部の大曾地区約10万 m^2 の土地が平坦化され、準工業地として開発され、その南側には総合グラウンド、公園の建設が計画されている。一部着工も間近である。

海岸部埋立造成



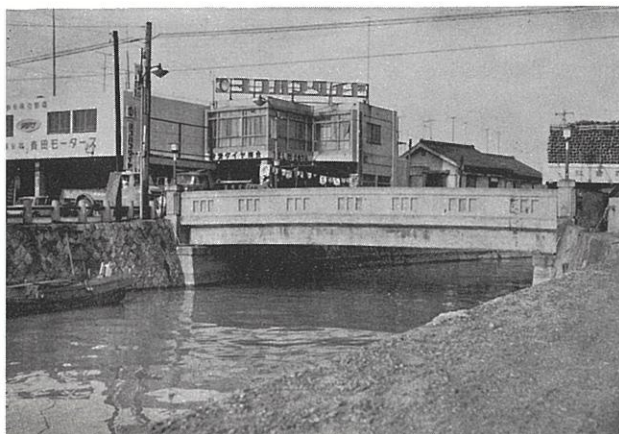


道 路 42 . 3 . 31

種 類	延 長	路 線 数	幅 員		路 面 の 状 況		
			4.6m 以上	4.6m 以下	コンクリート 舗	アスファルト 防じん舗装	砂 利 道
2 級 国 道	10,237 ^m	2	10,237 ^m	^m	^m	10,237 ^m	^m
県 道	33,770	11	20,230	13,540		25,552	8,218
市 道	322,351	2,070	47,100	275,251	3,858	36,765	281,728
計	366,358	2,083	77,567	288,791	3,858	72,554	289,946

道路橋りょう

市道改良、舗装は重点目標の一つとして積極的に施工され現在までに市道40.6 km、12.6%が舗装済み、41年度中では、16.4kmを舗装市道全体の5.1%にあたる。このほか砂利の散布、ローラーによるてん圧が行なわれ道路整備はほぼ完備している。



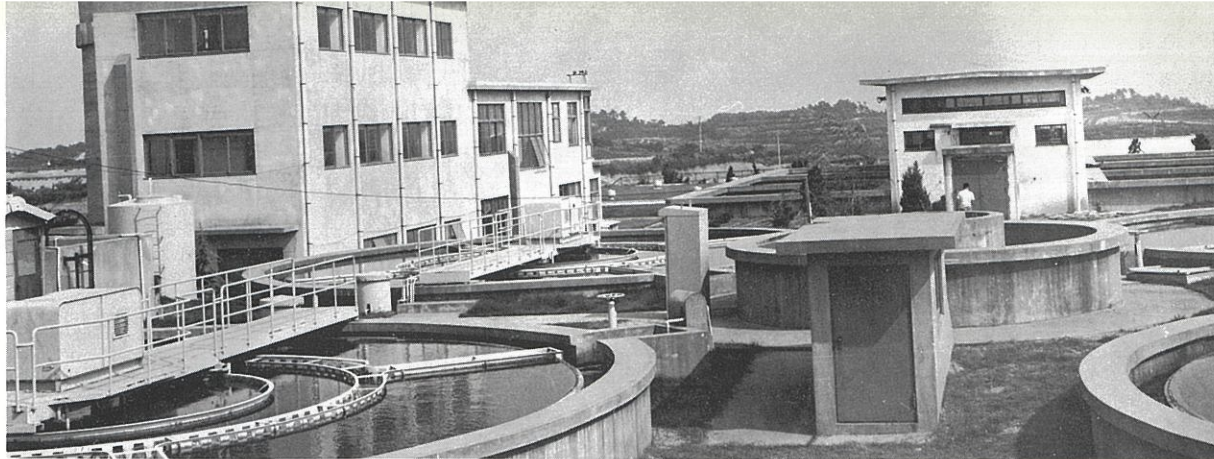
橋りょう 42 . 3 . 31

種 別	橋 種		延 長		面 積	
	永 久 橋	木 橋	永 久 橋	木 橋	永 久 橋	木 橋
2 級 国 道	13		85 ^m	^m	617 ^{m²}	^{m²}
県 道	29	1	168	6	1,002	22
市 道	79	72	310	354	1,266	1,008
計	121	73	563	360	2,885	1,030

上水道事業

近代都市の必須条件であり、文化生活のパロメーターともいわれる上水道は、愛知用水上水道計画により、昭和32年12月厚生省の認可を受け配水管布設工事に着手し昭和37年2月工事完成、愛知用水分水点の県営久米、大谷両浄水場から供給され、全市域（桧原地区を除く）に給水している。この完成により、従来の市営ならびに組合営の簡易水道はすべて整備統合され運営の一元化が実現した。

さらに第一期拡張事業は昭和40年1月に完成給水人口4,500人増を確保、第2期拡張事業は昭和50年を目標に給水人口19,500人増を見込み1人1日平均294ℓ、1日最大給水量、24,000m³の事業で昭和40年に着手され同45年度に完成予定であり、上水道の確保は充分に行なわれている。



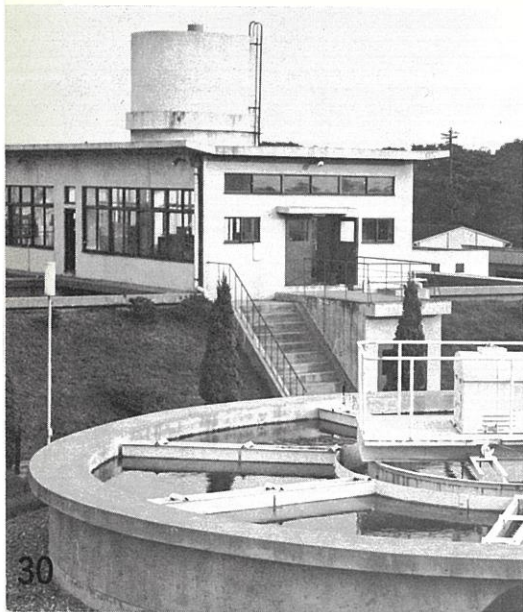
水道事業の経過

事業名	認可 年月日	竣工 年月日	事業費	配水量			摘要
				1人1日最大	1月最大		
創設	32.12.9	37.2	78,800千円	250ℓ	8,250m³	33,000人	統合
第1期拡張	38.12.28	40.1	14,550	256	9,600	37,500	
第2期拡張	40.12.23	46.3	300,000	420	24,000	57,000	施行41～45

営業状況

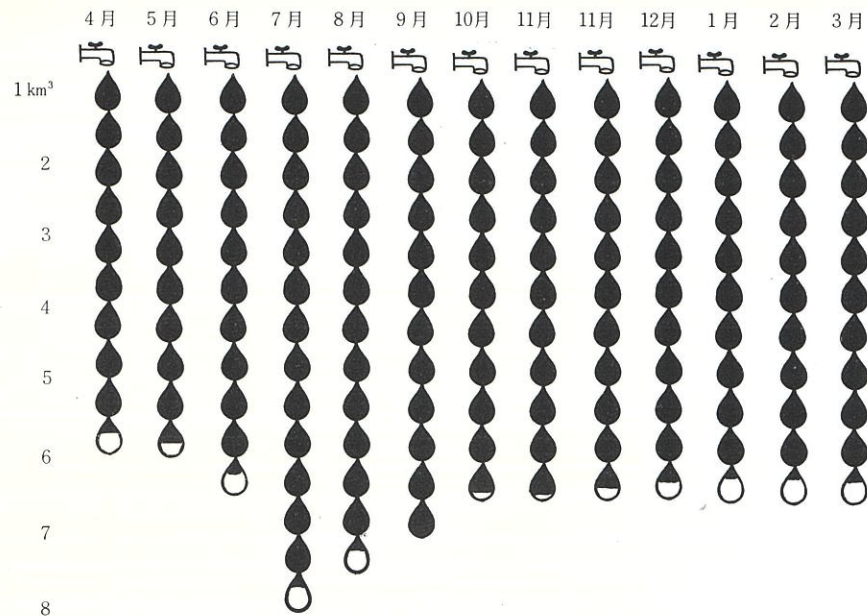
給水人口 業務量

項目	年度					指数				
	37	38	39	40	41	37	38	39	40	41
市人口(12月)(人)	51,655	52,224	52,861	53,316	53,631	100	101	102	103	104
計画給水人口(人)	33,000	37,500	37,500	57,000	57,000	100	114	114	173	173
実給水人口(人)	31,365	33,085	35,891	38,573	39,392	100	106	114	123	126
普及率(%)	61	64	69	73	74					
年間総配水量(m³)	1,511,624	1,695,263	1,999,540	2,237,948	2,357,705	100	112	132	148	156
年間総有収水量(m³)	1,350,512	1,649,498	1,955,772	2,099,293	2,322,272	100	122	145	155	172
有収率(%)	89	97	98	94	98					
水道料金調定額(千円)	45,745	55,351	64,600	69,347	75,759	100	121	141	152	166



大谷浄水場

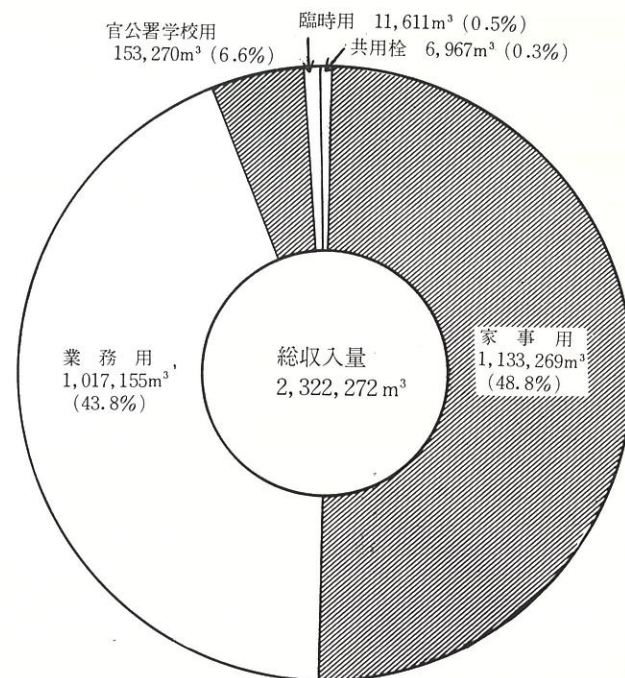
月別 1 日給水量 昭和41年度



水道施設状況 配水管の延長 昭和41年度末

管種 \ 口径 W / m	250	200	150	125	100	75	合計
石綿セメント管	356 ^m	2,727 ^m	3,155 ^m	6,995 ^m	16,696 ^m	35,782 ^m	65,711 ^m
鋼管	—	15	46	439	1,878	523	2,901
計	356	2,742	3,201	7,434	18,574	36,305	68,612
消火栓	か所 1	か所 6	か所 22	か所 40	か所 106	か所 204	か所 379

昭和41年度用途別内訳



水道の現在と将来 (目標年次昭和50年)

項目 \ 年次	昭和41年	昭和50年	指数	
			昭和41年	昭和50年
総人口 (人)	53,631	67,000	100	125
給水人口 (人)	39,392	57,000	100	145
普及率 (%)	74	85	—	—
1人1日平均給水量 (ℓ)	164	294	100	179
1日平均給水量 (m³)	6,459	16,758	100	259
1人1日最大給水量 (ℓ)	251	420	100	167
1日最大給水量 (m³)	9,711	24,000	100	247
年間総配水量 (m³)	2,357,705	6,116,670	100	259
年間総有収水量 (m³)	2,322,272	5,199,198	100	224

公立学校

学校教育は「機会均等」の主旨から、小学校の統合、中学校の統合が行なわれ、その施設整備拡充には最大の配慮がなされた。

まず昭和33年9月、三和、大野の両中学校が統合され、青海中学校を設立、34年11月鉄筋コンクリート2階建の校舎を建設、その整備拡充をし、計らずも34年には未曾有の大災害をもたらせた伊勢湾台風により各学校の校舎は甚大な被害を受けたが35年3月にいち早くこの補修工事を完了、同時に三和東、三和南小学校を統合し三和小学校を、大野、三和西両小学校を統合し大野小学校をそれぞれ設置し、36年3月に西浦北小学校は鉄筋2階建近代的校舎に、さらに38年には西浦、小鈴谷の両中学校を統合し南陵中学校を設置し第一期工事は39年8月完成、第二期、第三期の全体計画を41年に完成させ鉄筋3階建の近代校舎となった。このほか常滑小学校、鬼崎北小学校、鬼崎南小学校の校舎は鉄筋3階建近代校舎に改築され、さらに各学校に屋内運動場を計画、年々建設されており、教育に対する施設の整備拡充はめざましいものがある。

常滑小学校



西浦北小学校



市立幼稚園、小学校、中学校規模

昭和42年5月1日現在

校別	区 分			学級数	教員数	教員1人当りの児童数	規 模			構 造
	男	女	計				校 舎	運 動 場	校地総面積	
三 和 東 幼	23	27	50	2	3	17	322 ^{m²}	321 ^{m²}	1,296 ^{m²}	木造平屋建
三 和 南 幼	30	48	78	3	4	20	760	2,526	6,020	〃
常 滑 幼	63	58	121	5	6	20	994	1,758	3,755	鉄骨平屋建
合 計	116	133	249	10	13	19	2,076	4,605	11,071	
三 和 小	194	173	367	11	14	26	2,444	9,610	14,355	木造平屋建
大 野 小	255	234	487	12	15	33	3,030	5,108	12,744	〃 ・ 鉄骨平屋建
鬼 崎 北 小	184	182	366	12	15	24	2,211	14,574	18,047	鉄筋コンクリート一部木造平屋
鬼 崎 南 小	360	348	708	19	23	31	3,232	5,974	17,716	〃 〃
常 滑 小	847	828	1,675	40	46	36	8,342	6,969	21,696	〃 〃 木造2階
西 浦 北 小	233	244	477	12	15	32	2,641	5,613	10,631	〃
西 浦 南 小	136	130	266	8	11	24	1,668	7,273	11,802	木造平屋建
小鈴谷北小	190	187	377	12	15	25	2,191	7,084	18,119	〃
合 計	2,399	2,326	4,725	126	154	31	25,759	62,205	125,110	
青 海 中	224	237	461	11	20	23	3,438	15,061	27,068	鉄筋2階、鉄骨平
鬼 崎 中	258	238	496	12	20	25	3,807	21,230	47,164	〃 木造平屋
常 滑 中	453	404	857	20	33	26	5,483	15,269	30,906	〃 〃 〃
南 陵 中	338	275	613	15	23	27	4,986	13,703	24,939	〃 3階 〃 〃
合 計	1,273	1,154	2,427	58	96	25	17,714	65,263	130,077	

緑の学園づくりに

三つ児の魂百までという。幼児はものごとを素直に受け入れる。この素直な子供時代に、交通安全と情操教育が熱心に指導されている。年々近代校舎に改築される市内の保育園、幼稚園、小学校、中学校はいずれも将来緑の学園として構想され、植樹が行なわれつつある。小高い丘に建ち、伊勢湾を見おろし、緑に囲まれた学園での情操教育は子供らの将来に大きな期待をいだかせる。

鬼崎北小学校



南陵中学校

県立常滑高等学校

区分 校別	生徒数			学級数	教員数	教員 1人当り 生徒数	規模			
	男	女	計				校舎	運動場	校地 総面積	構造
全日制	491	643	1,134	22	51	22.3	m ²	m ²	m ²	鉄筋コンクリート4階
定時制	174	192	353	11	18	19.6	6,924	26,545	60,304	一部木造平屋

常滑市民体育会館

「体育の日」がはじめて国民の祝日となった昭和41年10月完成、公民館と体育館の機能を有するユニークな建物である。館内には、サーキットトレーニング室が設けられ、健康で強く美しくをモットーに市民の多数がトレーニングに参加している。

常滑市民体育会館



陶芸研究所

小高い常石の丘の上、近代的なこの研究所の中で、日本6古窯の一つ「古常滑」の伝統を受け継ぐ陶芸家たちが日夜研究に製作に孜々として励んでいる。

常滑市立陶芸研究所



常滑市高等学院

常滑市高等学院は市内に就職している者を対象に修業期間2か年、市内の北部、中部、南部に教室があり、それぞれ近くの教室で教育を受ける。働きながら楽しく学べる高等学院として、特に働く若い女性が多い。

公民館、公会堂

市内に28か所あり、地区民の各種集会、研修等公民活動の利用に供されている。その施設も近年整備されつつあり大半は立派な施設となった。

団体別団員会員数

区 分	団体数	人 数
O A A	7	300
青 年 団	6	691
婦 人 会	6	4,338

学級別生徒数

学 級 別	学級数	生 徒 数		
		男	女	計
勤労学級	1	0	296	296
青年学級	4	266	321	587
社会学級	8	240	1,200	1,440

体育協会各部人数 (単位 人)

野 球 部	軟 庭 部	卓 球 部	相 撲 部	陸 上 部	水 泳 部	排 球 部	弓 道 部	バスケット部	硬 庭 部	空 手 部	スキー部	ソフト部	ヨット部	射 撃 部	計
900	30	200	40	50	30	200	70	120	40	100	40	210	25	31	2,086

41年度では1日平均73人が閲覧し
年間32,400冊が閲覧されている。

月別ではもっともよく閲覧されたのが8月の3,900冊である。

市立図書館 分類別蔵書数 42.4.1 現在

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	児 童	郷土資料	合 計
総 記	哲 学	歴 史	社会科学	自然科学	工 学	産 業	芸 術	語 学	文 学			
1,307	602	1,908	1,491	917	729	207	1,138	325	5,697	3,055	556	17,932

市営プール

市営プールは、市内中央部の埋立地、鯉江新開に昭和37年3月着工され同年7月20日に完成した。

毎年6月から9月末日まで一般市民の利用に供され、附属設備も完備している。

主な施設内容

50米7コース公認プール1面

25米9コースプール1面

幼児用プール1面、監理事務所1棟

ポンプ室1棟、プール循環浄化装置一式



凡 例

五十米公認プール
二十五米プール
幼児用プール
飛込プール予定
ボーチ
切符売場
男子玄関
女子玄関
男子シャワー室
女子シャワー室
男子足洗場
女子足洗場
男子洗面所
女子洗面所
男子更衣室
女子更衣室
管理人室
運動器具庫
管理人室

選手控室
救急室
事務室
男子便所
女子便所
幼児便所
消毒薬槽
〃
〃
〃
浄化配水装置
スタンド予定
〃 〃



常滑市学校給食共同調理場

通称学校給食センターとして昭和40年4月16日から給食を開始した。本センターは完全給食（A型毎週5回）を実施、給食費としては中学生1人43円、小学生33円、幼稚園28円保育園18円である。

施設は鉄骨モルタル作り 529m²、実施可能数5,000食、現在中学校2校、小学校3校、幼稚園、保育園3か所に合計4,700食の給食を実施している。

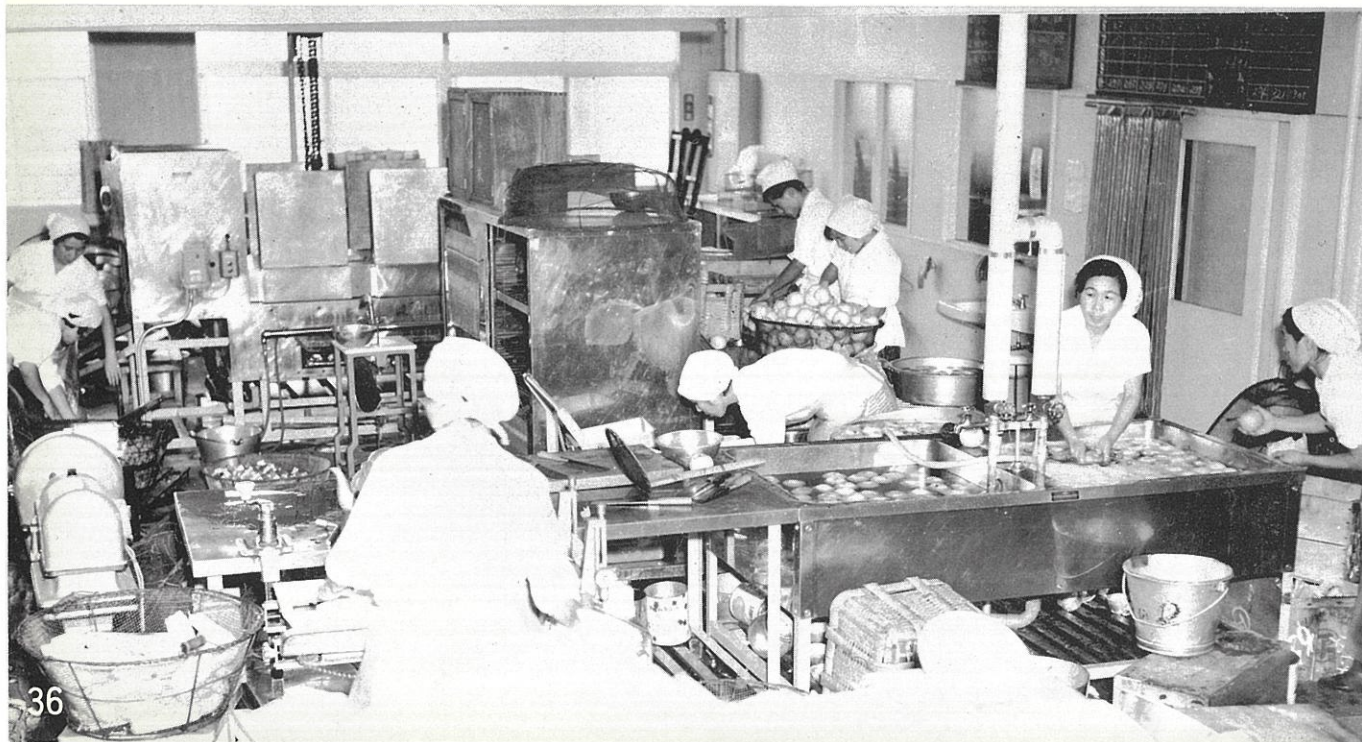
本施設は大別して、調理室と洗浄室を区分して設計され、他にボイラー室、事務室、食堂、休憩室、征庫、下処理場、更衣室、冷蔵庫が設けられ、総坪数485m²である。

調理婦17人で午前8時に作業開始12時前までには各学校への配達を終える。

昭和42年度給食実施人員

	学 級 数	生 徒 数	職 員 数	計
常 滑 中 学 校	21	854	33	887
南 陵 中 学 校	16	611	26	637
常 滑 小 学 校	41	1,665	49	1,714
鬼 崎 北 小 学 校	12	366	15	381
大 野 小 学 校	12	492	15	507
常 滑 幼 稚 園	3	120	8	128
常 滑 保 育 園	7	265	10	275
常 石 保 育 園	4	157	7	164
合 計	116	4,530	163	4,693

給食センター調理室



調理場設備一覧

ボ イ ラ ー	2
食 器 消 毒 保 管 庫	3
ラ イ ス ・ ボ イ ラ ー	7
皮 剥 機	1
調 理 台	3
下 流 し	1
上 流 し	4
食 缶 消 毒 槽	1
配 達 ワ ゴ ン	20
戸 付 パ ン ラ ッ ク	1
ミ ル ク ナ イ ザ ー	2
運 般 車 大 型	2
〃 軽 四	1
食 器 洗 浄 機	2
揚 物 機	1
ミ ル ク 二 重 釜	3
総 合 調 理 器	2
野 菜 切 さ い 機	1
保 温 食 缶	250
手 運 般 車	3
自 動 フ ラ イ ヤ ー	1

選挙

20才以上の国民にすべて選挙権が与えられた昭和21年の選挙法改正後、本市にも選挙管理委員会が置かれ、明るく正しい選挙の執行

管理にあたり、この啓発運動に力を入れ、42年7月には都道府県選挙管理委員会から表彰を受けた。

選挙人名簿投票区別有権者数

投票区	選挙人名簿				農業委員会委員		海区漁業調整委員会委員	
	投票所	男	女	計	投票所	有権者数	投票所	有権者数
1	矢田公民館	570	588	1,158	矢田公民館	851		
2	久米公民館	403	456	859	久米公民館	587		
3	前山公会堂	433	456	889	前山公会堂	656		
4	宮山公会堂	272	284	556	宮山公会堂	327		
5	小倉公会堂	337	433	770	小倉公会堂	264	大野出張所	55
6	大野出張所	1,205	1,375	2,580				
7	西之口公会堂	760	866	1,626	西之口公会堂	172	鬼崎漁業 協同組合 事務所	486
8	蒲池公民館	582	609	1,191	蒲池公民館	421		
9	鬼崎出張所	969	1,266	2,235	榎戸公会堂	562		
10	多尾公民館	1,275	1,385	2,660	多尾公民館	353		
11	北条会所	1,530	1,794	3,324	北条会所	202	常滑漁業 協同組合 事務所	(159)
12	常滑小学校	3,906	4,388	8,294	常滑小学校	422		
13	西浦北小学校	940	1,103	2,043	西浦北小学校	340	常滑漁業 協同組合 のり会館	384 (225)
14	西浦中保育園	614	718	1,332	西浦出張所	307		
15	西浦南小学校	781	862	1,643	西浦南小学校	443		
16	松原公会堂	156	161	317	松原公会堂	204		
17	大谷会館	502	585	1,087	大谷会館	443	小鈴谷漁業 協同組合 事務所	608
18	小鈴谷公会堂	326	340	666	小鈴谷公会堂	226		
19	広目公会堂	89	86	175	広目公会堂	145		
20	坂井公民館	291	345	636	坂井公民館	220		
合 計		15,941	18,001	34,041	合 計	7,145	合 計	1,533

市制施行以来選挙執行状況

執行年月日	選挙の種類別	当日の有権者	投票者	投票率
29.4.25	市長	無投票	入	%
30.2.15	県知事	24,369	17,449	71.60
〃.2.27	衆議院議員	24,342	18,707	76.85
〃.3.27	市長	無投票		
〃.3.30	市議会議員	24,451	22,491	91.98
〃.4.23	県議会議員	24,449	19,403	79.36
31.7.8	参議院議員(全国地方)	24,541	15,321	62.45
33.5.22	衆議院議員	27,704	22,994	83.00
34.2.1	県知事	28,415	19,360	68.13
〃.3.20	市長	28,488	26,283	92.26
〃.3.20	市議会			
〃.4.23	県議会議員	無投票		
〃.6.2	参議院議員(全国地方)	28,367	17,704	62.41
35.11.20	衆議院議員	28,762	23,307	81.03
37.7.1	参議院議員(全国地方)	31,267	22,823	72.99
38.2.3	県知事	31,329	18,445	58.88
〃.4.17	県議会議員	無投票		
〃.4.30	市長	31,483	29,199	92.75
〃.4.30	市議会議員	31,483	29,198	92.74
〃.10.28	参議院愛知県選出補欠議員	32,074	10,828	33.76
〃.11.21	衆議院議員	32,170	23,981	74.54
40.7.4	参議院議員(全国地方)	32,616	22,637	69.40
〃.11.5	参議院愛知県選出補欠議員	33,213	11,717	35.28
42.1.29	衆議院議員	33,565	25,073	74.70
〃.2.4	県知事	33,106	14,281	43.14
〃.4.15	県議会議員	33,297	20,442	61.39
〃.4.28	市長	33,193	30,231	91.58
〃.4.28	市議会議員			

消 防

火災から住民を守る消防は、本市が火気を取り扱う窯業地である関係で火災予防にはとくに重点がおかれている。昭和31年には、これまで地域的消防であったものを統合し、さらに機械化精鋭主義に改革、分団の再編成を行い、40年1月から常設の消防署を設置、その庁舎を市中心部に建設して年々機械化などで消防力の強化を計る一方、市民に対する火災予防思想の普及がなされている。

消防操法大会から



消 防 署 (39)

水そう付 消防自動車	消防自動車	小型動力ポンプ 積載車付	救 急 車	指 令 車
1	2	1	1	1

貯 水 そ う	消火栓	火の見	サイ レン
138	403	11	12

市 長 (消防本部) 消防長

消 防 団 長 (1)
副 団 長 (2)
本 部 員 (4)

区分 分団別	人 員						ポ ン プ 自 動 車 等			
	分団長	副 分 団 長	部 長	班 長	団 員	計	四 輪	三 輪	小 型 ポンプ	積載車
第1分団	1	4	4	8	43	60		2	2	2
第2分団	1	5	5	7	52	70		2	3	3
第3分団	1	2	2	6	29	40			2	2
第4分団	1	4	4	8	43	60	2			
第5分団	1	4	4	8	53	70		1	3	3
第6分団	1	3	4	7	45	60	1		3	3
第7分団	1	3	3	6	41	54		1	2	2

分 団 地 域 内 別			
9	37	1	2
28	76	2	2
17	61	1	0
27	76	1	2
33	87	2	3
10	21	2	1
14	45	2	2

過去10年の火災発生件数と損害額

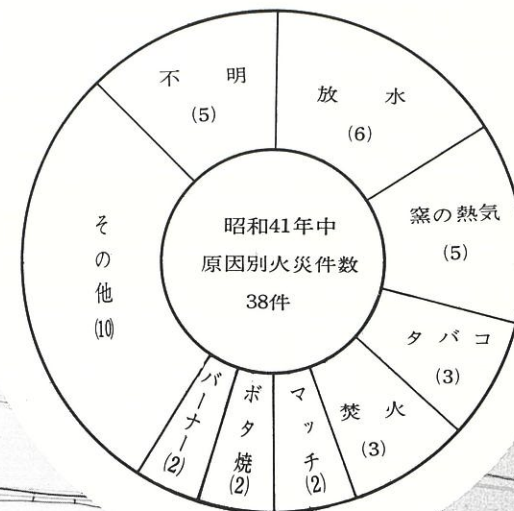
区 分 \ 年 別	32年	33年	34年	35年	36年	37年	38年	39年	40年	41年
件 数	8	7	22	8	12	20	9	16	51	38
損害額(千円)	13,612	3,823	11,421	16,203	1,104,925	17,501	12,712	83,505	46,566	15,153

原因別発生件数 ㊦㊧㊨

原 因 別	件数
放 火	6
原 因 不 明	5
窯 の 熱 気	5
焚 火	3
タ バ コ の 火	3
ボ タ 焼	2
バーナーの過熱	2
マ ッ チ 火	2
石油ストーブ過熱	1
電気アンカの過熱	1
電気配線器具の不良	1
漏 電	1
風呂釜のまき	1
煙 突 の 過 熱	1
ゴ ミ 焼	1
タ ー ル の 過 熱	1
線 香	1
てんぷら油に引火	1

月別火災発生件数および救急出勤回数

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
火災発生	4	3	5	0	2	1	2	5	1	6	4	5
救急発生	26	17	16	13	18	13	31	41	15	24	28	27



消 防 署



社会福祉事業は生活保護をはじめ、児童、母子、老人、身体障害者ならびに精神薄弱者の福祉各法の主旨にのっとり扶助・育成および更生のための業務が行われている。児童相談、心配ごと相談は毎月各地区ごとに定期的に開設され利用されている。

施設のうち保育園12は全部市立であり幼稚園と合わせ15か所、市入園児を受け入れる十分な施設が整備され一部では乳児保育を開始した。



常滑保育園

保 育 園 一 覧

園 別	認 可 年月日	定 員		収 容 人 員			保 母 数
		乳 児	幼 児	男	女	計	
三和西保育園	36.11.1	0	90	28	28	56	3
大 野 〃	23.4.1	0	130	64	66	130	5
鬼崎北 〃	29.6.1	0	143	76	67	143	6
鬼崎南 〃	27.6.30	10	180	98	82	180	13
常 滑 〃	42.8.1	46	204	107	97	204	9
常 石 〃	42.4.1	15	160	69	71	140	5
常滑南 〃	28.6.19	0	125	54	71	125	8
西浦北 〃	23.4.1	0	100	50	50	100	6
西浦中 〃	31.3.31	8	72	30	42	72	3
西浦南 〃	25.4.1	0	90	48	42	90	4
鈴 溪 〃	31.9.30	7	73	43	30	73	4
坂 井 〃	38.4.1	10	45	28	17	45	2
計 1 2 園		102	1,412	695	663	1,358	68

児童遊園地一覧

42.9.1

施 設 名	認 可 年 月 日	敷 地 面 積 m ²
坂井児童遊園	34.3.31	1,564.2
北条 〃	35.3.31	3,303.3
榎戸 〃	38.3.31	1,650.0
多屋 〃	38.3.31	980.1
奥条 〃	38.3.31	653.4
大谷 〃	39.4.1	1,388.4
常石 〃	40.4.1	1,593.9

民生委員、保護司配置保護状況

地 区 別	民生委員保護状況			保護司
	委員数	保護世帯	保護人員	
三 和	7	11	12	4
大 野	5	7	10	3
鬼 崎	11	11	28	5
常 滑	18	51	104	6
西 浦	9	10	22	4
小 鈴 谷	7	5	8	3
計	57	95	184	25

市営住宅

人口激増のない本市は、住宅問題では困窮とまでには至らないがよりよい生活向上を目指して年々20戸市営住宅が建設されている。

この市営住宅は近年は大曾開発地に建設されており当地は将来の住宅建設の計画もあって、大住宅地帯としての開発の一環ともなっている。さらに榎戸地区に建設された鉄筋3階建の県外からの就職者用宿舎 112戸があり、住宅対策は本市に合った着実な施策が行なわれている。



大曾市営住宅

生活保護状況 41年度

種 別	世 帯	人 員	金 額
生活扶助	延 1,086	延 2,195	7,610,284 ^円
教育 〃	260	555	534,639
住宅 〃	495	1,154	920,985
医療 〃	654	780	7,017,795
生業 〃	6	6	51,000
出産 〃			
葬祭 〃	8	8	52,063
計	2,509	4,698	16,186,766

公営住宅一覧

42.9.1.現在

	第 1 種		第 2 種		計	
	戸 数	面積 m ²	戸 数	面積 m ²	戸 数	面積 m ²
木 造	10	346.5	130	3905.7	140	4,252.2
簡易耐火	37	1310.6	20	641.0	57	1,951.6
計	47	1657.1	150	4546.7	197	6,203.8

母子福祉資金貸付状況 (貸付中のもの)

事業開始資金		支 度 資 金		事業継続資金		住 宅 資 金		修 学 資 金		修 業 資 金		計	
件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
7	570,000 ^円	4	60,000 ^円	5	100,000 ^円	5	400,000 ^円	59	4,000,000 ^円	3	108,000 ^円	83	5,238,000 ^円

国民健康保険

国民健康保険は市民の医療保障として昭和32年9月から他市町にさがけて開始され、年々給付内容の充実改善に努力してきた。これまで社会保険にくらべて低かった給付割合は38年の世帯主7割給付に続き、41年1月からは他市町に先んじて家族の7割給付を実施医療保障はいっそう強化された。

年度別国保被保険者数

区分 年 間	被 保 険 者		加 入 割 合	
	人 口	世 帯	人 口 %	世 帯 %
32年度	21,362	5,290	47.2	61.1
33年度	21,133	5,225	42.6	54.6
34年度	20,755	5,205	41.9	53.7
35年度	20,738	5,185	41.3	52.3
36年度	20,093	5,133	39.0	50.0
37年度	19,785	5,145	38.3	49.4
38年度	19,978	5,240	38.5	49.0
39年度	19,921	5,280	38.0	47.9
40年度	19,826	5,329	37.3	47.0
41年度	19,894	5,441	37.2	47.0

国民年金状況

昭和41年度

	受給権者	受給年金額 円	
		裁定年金額 円	受給年金額 円
老令年金	福祉	1,862	28,579,200
	拠出	0	0
障害年金	福祉	104	628,800
	拠出	3	204,000
母子年金	福祉	33	23,52,000
	拠出	28	1,641,600
遺児年金	拠出	2	60,000
合計	福祉	1,999	31,560,000
	拠出	33	1,905,600

年度別国保保険給付の状況

区分 年 度	療 養 給 付			療 養 費			助 産 費		葬 祭 費	
	件 数	費 用 額	保険者負担額	件 数	費 用 額	保険者負担額	件 数	費 用 額	件 数	費 用 額
32年度	21,751	16,496,591	8,018,319	508	1,292,916	484,939	154	154,000	137	137,000
33年度	42,560	38,950,317	18,799,678	1,449	3,245,648	1,622,824	270	270,000	186	246,000
34年度	52,422	56,668,276	27,484,158	1,355	2,305,952	1,152,976	260	260,000	178	348,000
35年度	55,306	65,646,711	31,994,572	1,236	2,401,067	1,200,227	267	267,000	226	452,000
36年度	55,718	85,887,196	42,514,695	1,329	1,760,291	874,505	253	253,000	181	362,000
37年度	58,549	98,112,474	48,982,337	1,361	1,438,852	716,497	302	553,000	220	439,000
38年度	61,971	117,336,942	62,211,612	1,292	1,905,276	992,888	267	532,000	197	394,000
39年度	68,440	147,904,620	83,218,343	1,298	1,950,041	1,105,112	241	481,000	159	318,000
40年度	68,150	173,230,240	97,978,626	1,421	2,005,476	1,103,232	302	604,000	191	382,000
41年度	70,940	203,268,107	121,535,647	1,523	2,139,296	1,216,370	215	430,000	208	416,000

国民年金検認

(保険料納付を記録したこと)

区 月	検認金額 円	率 %
4	632,790	55
5	1,502,590	210
6	1,177,500	155
7	854,040	127.7
8	1,567,290	129.2
9	1,099,610	120.4
10	996,380	133
11	1,469,680	133
12	637,080	105
1	1,419,120	102
2	2,333,720	102
3	2,884,060	105
4	417,000	99.1

保険衛生は、市民生活に直接関連のある重要な事業であり、公衆衛生の現場機関である知多保健所とともに、市民の健康管理にあたっている。

一般住民を対象に行なう結核検診、腸パラチフス予防接種、40才以上の成人病予防検診、幼児の生ポリワクチン投与ならびに百日咳予防注射など、きわめて活発に保健予防活動を実施している。昭和37年には全国結核予防会から予防と患者管理の功績を認められ表彰を受けている。

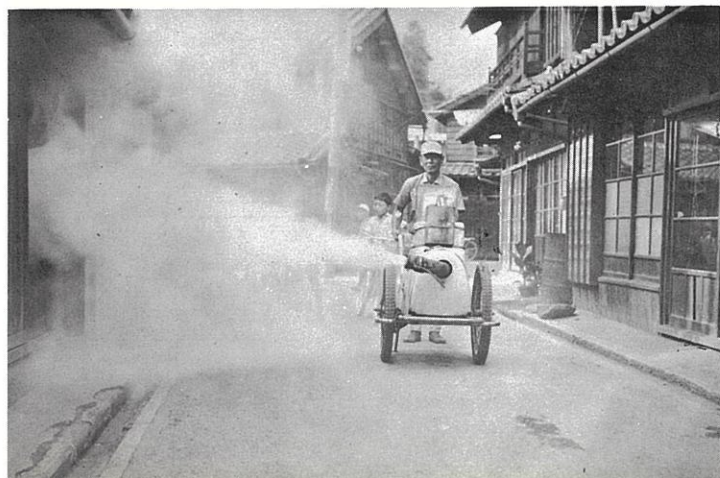


過去3か年度の結核健康診断

区分 年度	該当者数	受診者数	ツベルクリン反応検査				BCG 接種者数	X線及び精密検査		患者 発見数	発病のおそ れある者
			実施者数	陽性	疑陽性	陰性		間接	直接精密		
39年度	27,240	21,760	11,958	8,117	361	1,065	3,510	17,404	757	126	257
40年度	26,816	21,714	11,672	8,616	486	738	2,968	17,693	594	57	229
41年度	26,419	22,182	10,136	8,052	562	571	2,619	18,104	926	110	466

予防接種実施状況

種別	年度	40年	41年
痘 そ う	第1期	927 ^人	805 ^人
〃	2 〃	761	777
〃	3 〃	855	855
ジフテリア	第3期	758	756
〃	4 〃	851	851
ジフテリア 百日咳混合	初回免疫	935	807
〃	第2期	512	692
腸パラチフス	初 回	649	691
〃	追 加	15,178	14,474
急性灰白髄炎		661	987
インフルエンザ		9,262	8,925
日 本 脳 炎	初 回	827	3,608
〃	追 加	8,395	8,169



過去3か年度の法定伝染病発生状況

区分 年度	赤 痢	疫 痢	腸チフス	日本脳炎	ジフテリア	猩 江 熱	小児マヒ	計
39年度	38			1	1			40
40年度	208		1	1		1		211
41年度	27		1			1		29

火葬場使用状況

月別 年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
40年度	34	51	34	28	27	24	27	29	41	41	40	32
41年度	37	28	29	28	39	17	35	42	42	39	48	47

ごみ処理

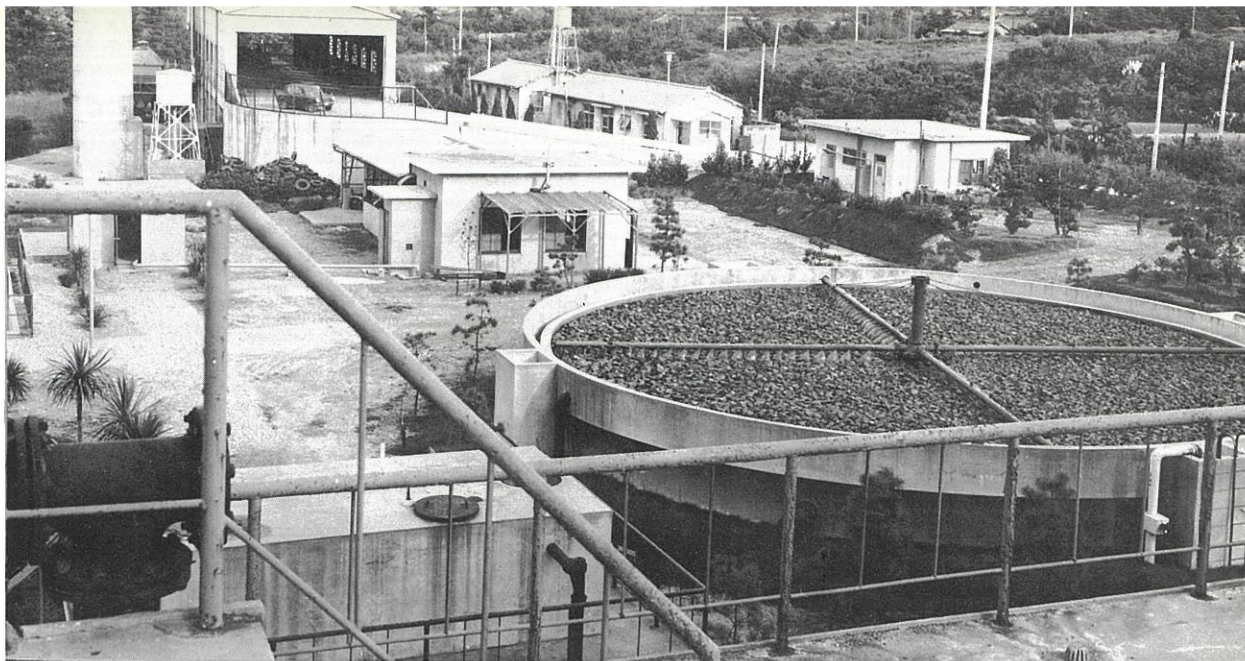
ごみは、生活の向上、人口の増加などに伴い、排出量の増加、ごみ質悪化の一途をたどっている。この都市衛生上緊急を要する問題として苦慮されていたごみ処理について、隣接武豊町と一部事務組合を設立し、この問題解決のため武豊町地内にごみ処理施設を完成した。現在11,900世帯について週2回収集する。

し尿処理

し尿処理は、現在市民の要望に応え、連絡と同時に収集できる体制にありバキューム車5台で業者に委託している。この処理場は隣接の半田市および武豊町の2市1町で組合を設立しごみ処理場の隣接地に38年9月処理施設を建設化学的処理に当たっている。

しかし、昭和40年から41年にかけて処理場排水施設がこわれ一部海洋投棄が行なわれた。

ごみ・し尿処理場



ごみ処理状況

年度	区分	収集人口	1日収集量	年間収集量	埋立	農村還元	焼却場	委託料
39年度		28,395 ^人	16 ^t	4,846 ^t	55 ^t	160 ^t	4,631 ^t	7,569千円
40年度		30,136	17	5,036	97	—	4,939	8,812
41年度		36,535	21	6,227	328	—	5,899	13,028

し尿処理状況

年度	区分	汲取人口	汲取量	農村還元	海洋投棄	し尿処理場
39年度		25,850 ^人	9,503 ^{kl}	74 ^{kl}		9,429 ^{kl}
40年度		28,093	10,553	293	4,444 ^{kl}	5,816
41年度		28,599	10,588	245	376	9,967



市民病院

市民の医療機関として昭和34年4月建設された市民病院は、全国医療機関のモデル建築として注目を集めている。この常滑市民病院は本市の中心部にあり当地方の医療の中心となっており、市民のみでなく、近隣市町民の利用にも供せられ、これらの増加する患者に十分に応ぜられるよう、施設の拡充を計画、昭和43年度には増築が行なわれる予定である。



市民病院診療科月別利用状況

区分 月別	内 科		外 科		小 児 科		皮膚泌尿器科		産 婦 人 科		耳鼻咽喉科		眼 科		計	
	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来
4	3,587	3,616	1,093	1,984	35	522	289	2,316	833	1,300	277	1,398	34	1,650	6,148	12,786
5	3,300	3,696	1,156	2,103	78	567	286	2,654	816	1,695	260	1,342	70	1,640	5,966	13,697
6	3,162	3,904	1,145	2,606	28	522	304	2,903	786	1,724	255	1,567	65	1,776	5,745	15,002
7	3,279	3,988	1,097	2,809	90	564	285	3,305	668	1,763	285	2,081	63	1,770	5,767	16,280
8	3,207	3,838	1,108	2,818	60	568	267	3,507	832	1,790	379	2,293	8	2,307	5,861	17,121
9	3,090	3,849	1,083	2,588	78	537	283	3,216	714	1,935	235	1,452	7	1,501	5,490	15,078
10	3,118	3,643	1,097	2,404	107	545	279	2,746	645	1,810	278	1,265	31	1,267	5,555	13,680
11	2,987	3,392	1,086	2,203	36	450	279	2,480	746	1,779	303	1,156	30	1,043	5,467	12,503
12	2,987	3,496	1,073	2,081	34	528	286	2,173	637	1,720	355	1,303	7	1,118	5,379	12,419
1	2,760	3,143	937	1,924	37	573	298	2,039	936	1,488	246	1,202	0	1,030	5,214	11,399
2	2,614	3,321	1,039	1,984	109	639	226	2,361	781	1,615	243	1,255	0	1,045	5,012	12,220
3	2,950	4,045	1,158	2,451	102	681	271	3,008	873	2,004	294	1,297	0	1,283	5,648	14,769
計	37,041	43,931	13,072	27,955	794	6,696	3,353	32,708	9,267	20,623	3,410	17,611	315	17,430	67,252	166,954
1日平均	101	144	35	92	2	22	9	107	25	68	9	58	1	57	184	551

市内医療施設

施 設 名	数
病 院	1
診 療 所 (医 院)	28
歯 科 診 療 所	13
整骨、はり、あんま	49
助 産 婦	27
伝 染 病 舎	1

市内医療関係者

名 称	人員
医 師	43
歯 科 医 師	18
薬 剤 士	31
獣 医 師	5
整 骨 医	4
は り・あ ん ま	46

交通

本市は中部圏の核心名古屋市からは名古屋鉄道常滑線の終点常滑駅に50分で致着する。市内には6駅があり1日平均2万余人の乗降がある。これら乗降客の大半は名古屋方面への通勤、通学であり、このほか観光地知多半島南端あるいは東海岸の半田市方面へは終点常滑駅から知多バスが利用される一方、自動車では名古屋から国道247号線が南下し本市と結んでおり交通の便は良い。朝夕の通勤時に自転車、バイクの多いのも本市の特徴である。



名鉄電車市内各駅乗降者数

駅 別		昭和40年度 乗 降 客 人	昭 和 41 年 度			
			乗 降 客 人	計 人	1 月 平 均 人	1 日 平 均 人
常 滑 駅	乗	3,405,383	1,710,242	3,409,941	284,161	9,342
	降		1,699,699			
多 屋 駅	乗	287,448	117,686	234,965	19,580	643
	降		117,279			
榎 戸 駅	乗	783,761	369,405	739,101	61,591	2,081
	降		369,696			
蒲 池 駅	乗	563,344	256,319	512,518	42,709	1,404
	降		256,199			
西之口駅	乗	507,721	257,244	514,694	42,891	1,410
	降		257,450			
大野町駅	乗	3,334,883	1,543,328	3,079,749	256,645	8,437
	降		1,536,421			

市内の自動車数は近年著しく増加し、合計12,927台は一世帯に付約1.1台の保有になり全国平均を上廻っている。本市の市街地が海岸沿いにはそ長い形態であり、電車終点常滑以北の6駅、ならびに常滑駅に通ずるバス路線の各駅えは一部を除きいずれも徒歩で10分以内の距離にある。

市内自動車台数

42. 4. 1 現在

種別 台数	2 輪 車				小型特殊 農 耕 用	そ の 他	軽 自 動 車		
	50cc	90cc	125cc	125cc以上			3 輪 車	4 輪貨物	4 輪乗用
台 数	2,746	1,903	896	291	641	4	1,009	2,114	344

3 輪		ト ラ ッ ク			普 通 乗 用 車	バ ス	合 計
1 t 以下	1 t 以上	小 型	普 通	ライトバン			
184	378	722	211	411	1,049	17	12,927

知多バス常滑駅乗降客 (昭和41年)

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	計
乗 降 客 数	115,859 [^]	86,278	142,695	109,686	114,453	119,316	110,486	118,723	138,241	120,036	128,035	124,410	1,428,191
1 日 平 均	3,737 [^]	3,081	4,603	3,556	3,692	3,977	3,564	3,829	4,607	3,872	4,267	4,013	3,912

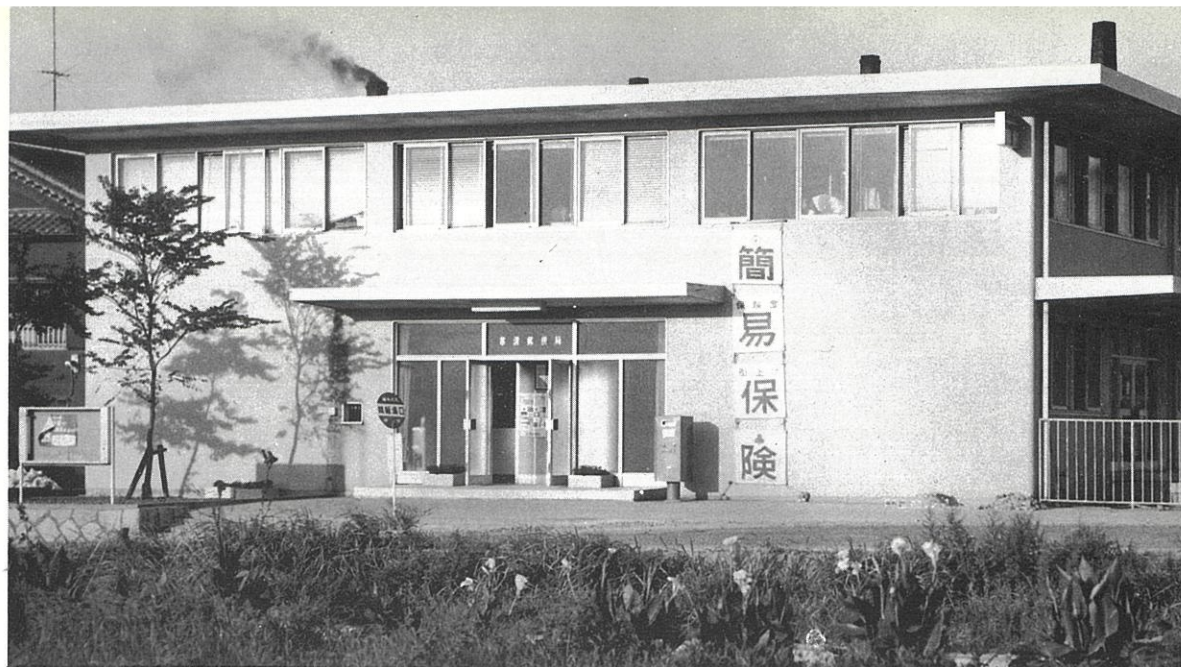
常滑港移出入状況

昭和41年度

移 出			移 入		
品 種	数 量	仕 向	品 種	数 量	仕 向
陶磁器類	4,782 [↑]	三重	油 類	7,835 [↑]	名古屋、四日市
〃	15,158	関西、中国	石 炭	58,387	九州
〃	17,218	四国	〃	7,500	北海道
〃	19,021	九州	土 石	82,630	幡豆、三重
〃	50	その他	原 木	12,841	三重、和歌山
そ の 他	110		木 製 品	2,408	和歌山
			薪 炭	5,068	三重、和歌山
計	56,739		計	176,669	



郵便集配の敏速化能率化をはかるため市内の郵便局は38年11月に機構改革を実施して集配の一本化をし、常滑郵便局を普通化に昇格させた。このほか市内には集配時定局1、無集配特定局8の合計10局があり、41年中の郵便物集配状況は、引き受けが普通郵便物約280万通、小包約3万5千個となっている。一方配達数は市民一人当たり約70通となり引き受け数に比べ3割ほど多くなっている。



局名	種類	普通郵便		特殊郵便		普通小包		特殊小包		計	
		引受	配達	引受	配達	引受	配達	引受	配達	引受	配達
(普通)常滑郵便局		2,536,997	3,211,614	113,895	104,716	24,613	31,251	3,759	7,695	2,679,264	3,355,276
(集配特定)小鈴谷		114,610	359,890	1,790	3,351	579	2,190	124	412	117,103	365,843
無集配特定局	尾張大野			9,973		4,350		662		14,985	
	尾張三和			860		108		27		995	
	鬼崎			2,786		1,406		107		4,299	
	多屋			751		298		23		1,072	
	山方			5,850		2,279		257		8,386	
	樽水			2,799		1,074		280		4,153	
	尾張西浦			2,733		1,145		66		3,944	
	坂井			621		316		53		990	
計		2,651,607	3,571,504	142,058	108,067	36,168	33,441	5,358	8,107	2,835,191	3,721,119

	40年		41年	
	国内	国際	国内	国際
発信	13,593	427	12,374	324
	294	0	2,204	0
着信	16,386	379	15,690	266
	1,503	0	1,446	0
中継信	23,014	0	16,624	0
	6	0	9	0
計	54,602		46,937	

電話加入状況

()内は構内交換機数

区分	39 年			40 年			41 年		
	単 独	共 同	構内交換	単 独	共 同	構内交換	単 独	共 同	構内交換
常 滑 局	1,929	166	($\frac{8}{33}$)	1,981	166	($\frac{9}{35}$)	2,203	189	($\frac{9}{34}$)
尾張大野町	708	128	($\frac{3}{7}$)	709	709	($\frac{3}{7}$)	1,602	34	($\frac{3}{10}$)
小 鈴 谷 局	212	16	1	211	20	1	235	26	1
計	2,849	310	($\frac{11}{41}$)	2,901	895	($\frac{12}{43}$)	4,040	249	($\frac{12}{45}$)

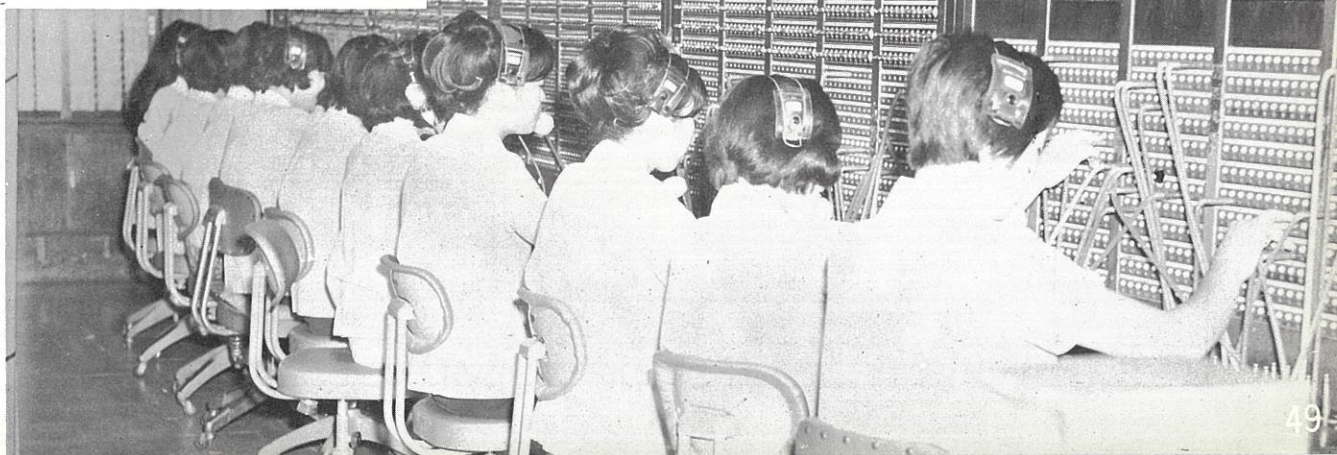
有線放送

本市合併当時、市内の電話局4局、加えて待時式という不便さは行政面でも市民生活の上でも大きな支障となっていたが、昭和35年12月同一市内即時通話と農事放送を目標に市内7農協が出資して常滑市有線放送連合会を設立、36年6月には電話機保有数6,070台と全国でも屈指の大規模な集中方式による有線放送電話を開始した。以来加入数も増加、現在7,782台常滑市民の「耳」として大きな役割りを果たしている。

有線施設利用状況 41年度

依頼受付別	放送回数
市役所関係	2,478
青年団婦人会	1,685
農 協	368
漁 協	69
警 察	278
学 校	251
郵 便 局	52
農業普及所	58
一 般	475
宣 伝	4,091
そ の 他	385
合 計	10,189

有線放送交換室



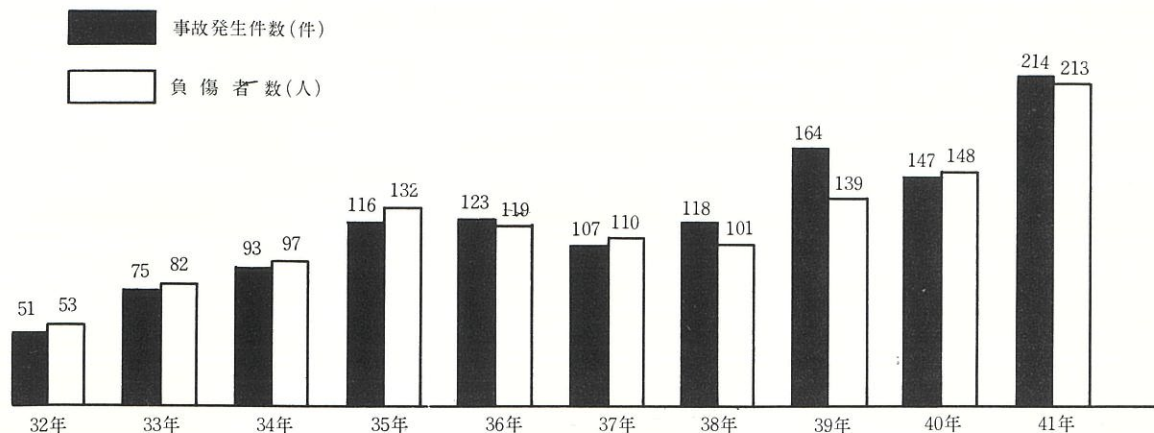
常滑電報電話局受付事務所

テレビ・ラジオ視聴取契約数 3月31日 現在

区分	年別	40 年	41 年	42 年
テ レ ビ		9,968	10,254	10,544
ラ ジ オ の み 受 信		993	721	1,225

本市の治安にたずさわる横須賀警察署は本市に派出所1、駐在所8所があり、警察官24名が配置されている。このほか住民の防犯体制として防犯協会があり、市内に28名の防犯支部長と400名の防犯委員を配置、去る42年7月には暴力追放総けっき大会を開催、“小さな暴力も許さない、全員で通報体制を強化し犯罪のない明るい郷土の建設を”と宣言した。

年次別交通事故発生状況



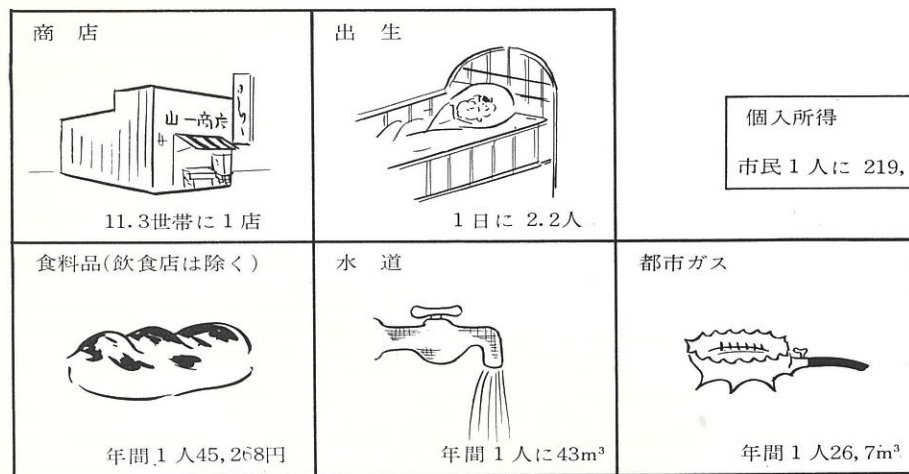
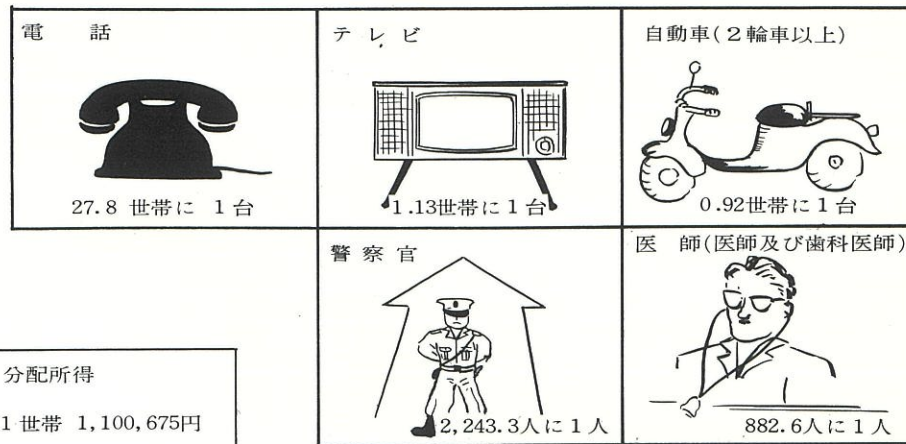
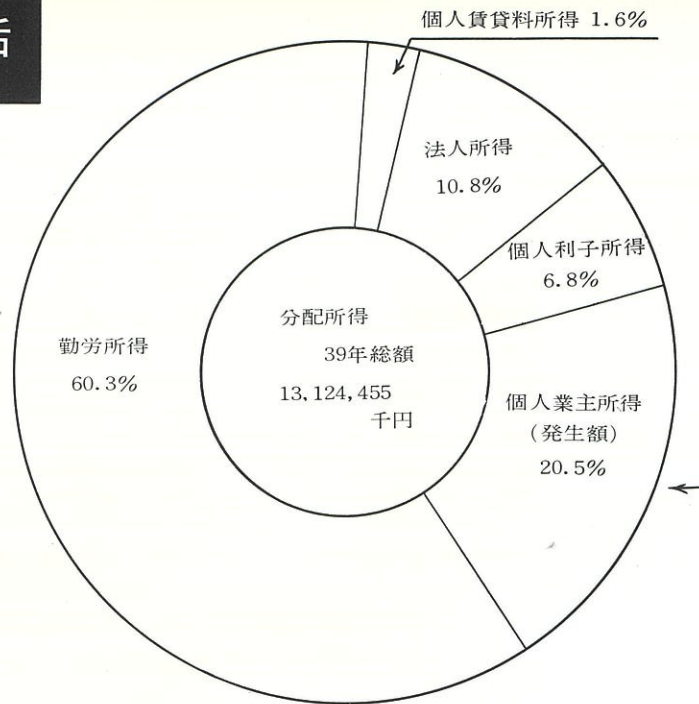
市内での犯罪発生検挙状況

区分	年別	39 年		40 年		41 年	
		発生	検挙	発生	検挙	発生	検挙
窃盗	盗	230	149	359	127	243	78
詐欺	欺	28	18	12	12	10	10
傷害	害	15	15	14	14	10	10
恐喝	喝	14	14	5	5	4	4
暴行	行	8	8	3	3	3	3
強姦	姦	4	4	1	1		
強盗	盗					1	1
殺人	人			未遂1	未遂1		
放火	火			3	3	2	2
失火	火	3	3	10	10	3	3
業務過失		85	85	81	81	97	97
その他		28	27	36	36	9	9
計		415	323	525	293	382	217

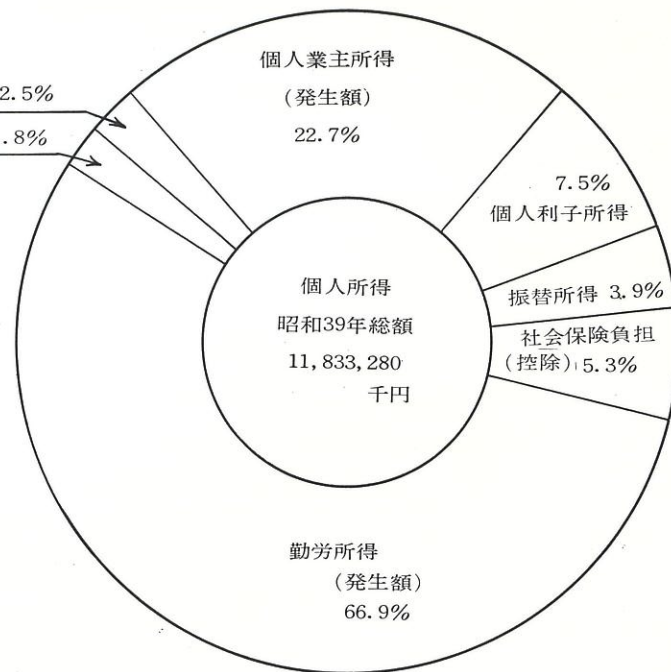
41年 月別交通事故調

月	発生	死者	傷者
1月	12	1	10
2月	12	0	14
3月	15	1	14
4月	17	0	21
5月	20	2	22
6月	24	2	19
7月	24	0	24
8月	28	1	33
9月	12	0	12
10月	25	0	21
11月	14	1	10
12月	11	0	13
計	214	8	213





個人所得
市民 1 人に 219,786円



市内には大野海岸と坂井海岸の海水浴場がある。このほか砂丘のある鬼崎地区の海岸一帯も海のレジャーを楽しむ人で賑わう。ことに家族連れで賑わう大野海水浴場は潮湯治といわれ、古来から親しまれた海水浴場として世界最古といわれている。名古屋中心部から40分の近距離にあり、波静かな伊勢湾に近代的施設を完備し、家族ぐるみのレジャーに快適な県内有数の海水浴場である。遠浅の坂井海岸は春の潮干りに夏は海水浴、海釣りで賑わう。



坂井海岸潮干狩り



常滑沖の海釣り



海 釣 り

伊勢湾に臨む海岸線一帯は沖釣り、磯釣りが盛ん。沖釣りは常滑、鬼崎および大野から釣り船がでて、キス、コチ、マダカ、タコ、フグ、ズイ、カニなどよく釣れる。春から秋にかけて釣り大会も盛んに開かれる。磯釣りは海岸一帯の防波堤で、アイナメ、キス、チンタなどが釣れ、一日中太公望を味わう人も多い。

鬼崎ヨットハーバー ▶

鬼崎ヨット・ハーバーは日本屈指の最適地として名古屋大学を始めとし大学、実業団の艇庫が置かれており、大型艇約30隻、小型艇約120隻が基地として利用している。大平洋を横断した「チタ2世号」グループの基地でもあり、毎年全国ヨット競技が行なわれ東海地方最大のヨット・ハーバーである。海洋活動のための施設も近々着工される予定で東海地区の海に親しむ者の利用に供される日も近い。



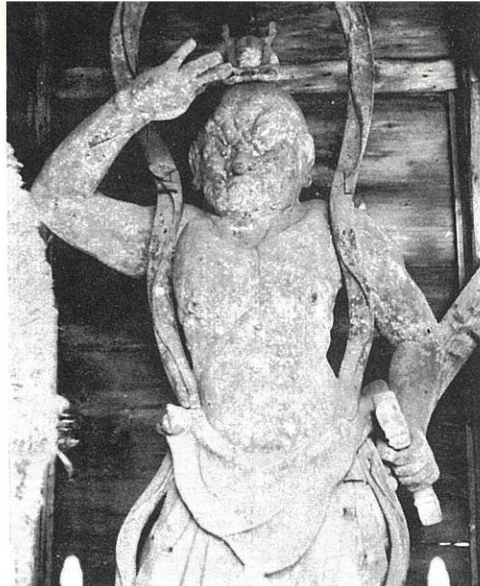
◀ 本宮山

知多半島第2の高地である本宮山は戦前国際航空路の要所として350万燭光の灯台があった。伊勢湾および三河湾を一望におさめ、眺望雄大なこの山は、ハイキング、キャンプ地として最適である。

山頂に本宮祠を祀り、毎月1日が参詣日である。

大野城趾

大野町駅から東南へ2キロ、西之口駅から東へ1キロ、大野佐治時代にわたる城趾であり、本市北部と伊勢湾を一望におさめる、眺望佳麗の地、隣接は青海団地が造られ山容は一変して明るく拓かれた。



高讃寺

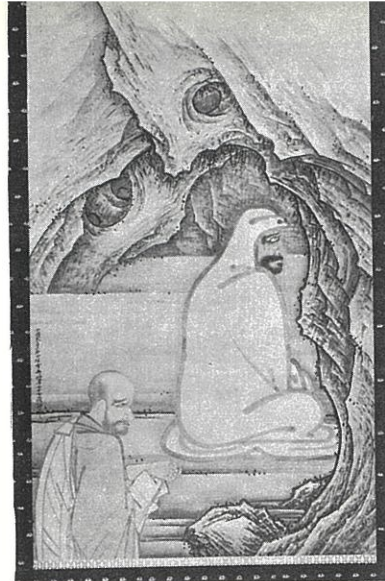
高讃寺の仁王像

高讃寺は天武天皇勅願の霊場といわれ、往古300の坊宇があったが、数度の兵火で焼失し現在に残りの一字のみであるが、境内の仁王門と周囲をおおう松、桜、楓が茂り寺蹟をしのばせる。

仁王門にある仁王像2体は鎌倉時代の作、このほか本造の阿弥陀如来立像、聖観音菩薩立像（平安時代の作品）がありいずれも県文化財の指定を受けている。

高久隆古の作品群

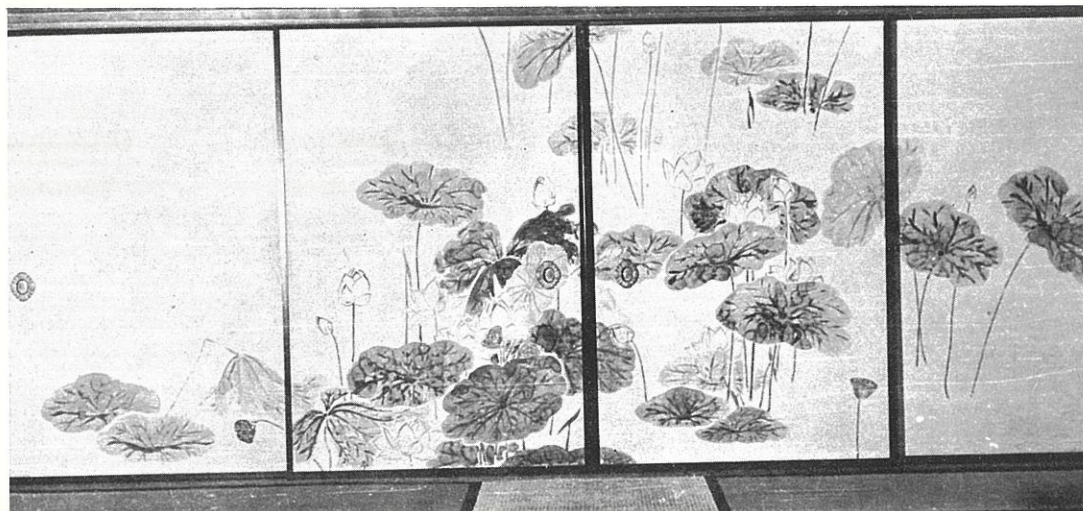
正住院蔵物の高久隆古の作品群は県文化財に指定されている。これらはいずれも「からかみ」に描かれ、龍の図、鳥の図、鹿の図など10数点がある。



雪舟慧可断臂図

重要文化財の雪舟慧可断臂図は市内大野地区齊年寺所有である。

禅宗の開祖ダルマが北支の小林寺で毎日壁に向って坐禅をしていると、雪の降る夕、のちに第2祖となった慧可（えか）が弟子入りをこうた。徹夜して雪中に立ったが許されず、ついにヒジを切ってさざげた。それを描いたものである。雪舟77才の作品である。





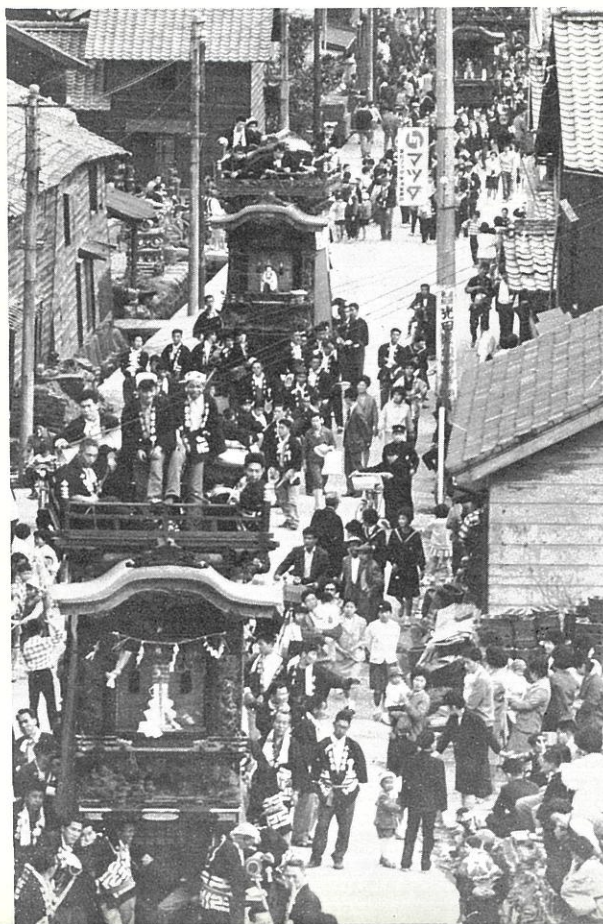
▲ 古 窯 跡

今から 900 年前、平安末期から鎌倉、室町末期にかけて市内丘陵部一帯に3000をこえる窯がぎざぎざと、世界にも類例のない壮観さを呈していたものと推定される。

これらの窯は山腹の砂層に穴を掘って、そのまま窯にした「穴窯」で附近の雑木を燃料にして焼かれたようである。特に市内東北部龍池地内の古窯跡は県文化財となっている。

▼ 祭 礼

市内の祭礼はおおむね 4 月 14、15 日に一せいに行われる。この日は山車、催しものと地区ごとに多彩を競い、全市を祭り気分であきた、せる。



▲ 多賀神社

多賀神社の境内は、うっそうととして社殿莊厳、県下十勝地に数えられている。

毎年（旧暦 2 月午日）の大祭には遠近から数万の参拝者と参道に並ぶ露店でにぎわいを見せる。

市内官公署一覧

電話市外局番 常滑 〈05693〉 大 〈05694〉 小 〈056901〉

名 称	所 在 地	電 話	有 線	名 称	所 在 地	電 話	有 線
常 滑 市 役 所	字南屋敷 3 9	代(5)2900	1~7	常 滑 市 立 小 鈴 谷 北 小 学 校	大谷字道向 1 1 1	小 2 1	48-2
三 和 出 張 所	久米字東前田 4 6	大(2)0142	10	常 滑 市 立 西 浦 南 小 学 校	古場字栗下前 5 の 3	(5) 4002	46-2
大 野 出 張 所	大野町字十市鍛 7 6 の 1	大(2)0001	11-1	常 滑 市 立 青 海 中 学 校	金山字南平井 1 3 の 1	大(2)0331	26-3
鬼 崎 出 張 所	榎戸字浜田 9 3 の 2	大(2)0475	13-1	常 滑 市 立 鬼 崎 中 学 校	榎戸字新田山 1	大(2)0221	32-3
西 浦 出 張 所	熊野字南馬場 3 2	(5) 2369	15	常 滑 市 立 常 滑 中 学 校	字土取畑 1 1	(5) 2375	36
小 鈴 谷 出 張 所	坂井字中田 1 2	小 4	16	常 滑 市 立 南 陵 中 学 校	苅屋字鴨 1 0	(5) 4005	48-3
常 滑 市 教 育 委 員 会	字南屋敷 3 9	代(5)2900	7-1	常 滑 市 立 函 書 館	字屋敷田 3	(5) 2217	38-5
常 滑 市 農 業 委 員 会	〃	〃	10-1	県 立 常 滑 高 等 学 校	字徳磯 4 9 の 3	(5) 2132	475-21
常 滑 市 民 病 院	字鯉江新開 1 の 1	代(5)3170	17	常 滑 市 立 陶 芸 研 究 所	字樋掛 4 5	(5) 3970	487-21
常 滑 市 営 プ ー ル	〃 476	(5) 2797	20-6	常 滑 陶 器 館	字屋敷田 3 0 の 1	(5) 2033	34-2
競 艇 事 業 課	〃 475	(5) 2031	20-1	名 古 屋 法 務 局 常 滑 出 張 所	字中郷 93 の 53	(5) 2581	569-20
常 滑 市 民 体 育 会 館	〃 14-83	(5) 4611	18-2	愛知食糧事務所知多支所常滑出張所	大野町字十市鍛 76 の 1	大(2)0206	11-2
常 滑 消 防 署	〃 46	(5) 2600	1 1 9	愛 知 県 陶 磁 器 試 験 場	字師ヶ谷 2 5 の 1	(5) 2449	564-19
学 校 給 食 共 同 調 理 場	字保示 4 0 0	(5) 4001	40-2	愛知県半田土木事務所常滑分所	榎戸字浜田 9 3 の 2	大(2)0140	1-2
常 滑 市 立 三 和 西 保 育 園	金山字郷前 7	大(2)0769	224-25	愛 知 県 知 多 保 健 所 常 滑 支 所	字鯉江新開 5 7	(5) 2537	569-16
常 滑 市 立 大 野 保 育 園	大野町字十砂 5 4	大(2)1400	28-1	愛 知 県 常 滑 農 業 改 良 普 及 所	大野町字十市鍛 76 の 1	呼大(2)0001	11-3
常 滑 市 立 鬼 崎 北 保 育 園	西之口字上ゲ 6 1	大(2)0612	30-1	常 滑 電 報 電 話 局	字屋敷田 4 6 の 1	(5) 4245	
常 滑 市 立 鬼 崎 南 保 育 園	多屋字名残 82 の 2	(5) 2877	32-1	常 滑 郵 便 局	字中郷 1 0 7	(5) 2453	18-5
常 滑 市 立 常 滑 保 育 園	字北屋敷 8	(5) 2437	34-1	尾 張 大 野 郵 便 局	大野町字十市鍛 3 1	大(2)0660	262-5
常 滑 市 立 常 滑 南 保 育 園	字市場 9 3	(5) 2723	40-1	尾 張 西 浦 郵 便 局	古場字柳 6 7 の 5	(5) 4257	46-5
常 滑 市 立 常 石 保 育 園	字樋掛 4 3	(5) 4823	19-2	小 鈴 谷 郵 便 局	小鈴谷字梶田 73 の 1	小 42	48-5
常 滑 市 立 西 浦 北 保 育 園	樽水字塩田 5 4	(5) 3147	42-1	尾 張 三 和 郵 便 局	久米字東郷 5 の 1	大(2)1908	
常 滑 市 立 西 浦 中 保 育 園	西阿野字西御堂 92 の 1	(5) 3152	44-1	鬼 崎 郵 便 局	榎戸字新町南 6163	大(2)1909	
常 滑 市 立 西 浦 南 保 育 園	古場字廻間 5 5	(5) 4100	46-1	山 方 郵 便 局	字山方 1 1 8 の 1	(5) 4258	
常 滑 市 立 鈴 湊 保 育 園	大谷字井戸尻 1 3	小 164	48-1	樽 水 郵 便 局	樽水字島出山 4 の 6	(5) 4259	
常 滑 市 立 坂 井 保 育 園	坂井字中田 1 2	小 55	16-2	坂 井 郵 便 局	坂井字浜田 6 の 3	小 45	
常 滑 市 母 子 寮	金山字屋敷 3 0	大(2)0771	26-1	多 屋 郵 便 局	多屋字後条 131-6	(5) 4810	
常 滑 市 立 三 和 東 幼 稚 園	矢田字東根組 3 7	大(2)0143	22-1	愛知県横須賀警察署常滑警部派出所	字南屋敷 6 3	(5) 2410	1 1 0
常 滑 市 立 三 和 南 幼 稚 園	金山字平井 1 2 0	大(2)0774	24-1	〃 久米 巡査駐在所	久米字東郷 3 8	大(2)0742	24-10
常 滑 市 立 常 滑 幼 稚 園	字原松 4 5	(5) 2124	26-2	〃 大野北 〃	大野町字新田北 5 の 1	大(2)0352	28-9
常 滑 市 立 三 和 小 学 校	久米字西郷 1 8	大(2)0749	24-2	〃 大野南 〃	大野町字砂鍛市	大(2)0046	28-10
常 滑 市 立 大 野 小 学 校	大野町字砂鍛市 1 2 0	大(2)1011	28-2	〃 西之口 〃	西之口字郷中 1 の 3	大(2)0248	30-10
常 滑 市 立 鬼 崎 北 小 学 校	西之口字上ゲ 6 1	大(2)0222	30-2	〃 多 屋 〃	多屋字山際北 1 1 4	(5) 2645	32-10
常 滑 市 立 鬼 崎 南 小 学 校	多屋字名残 7	(5) 2422	32-2	〃 樽 水 〃	樽水字塩田 8 4 の 1	(5) 2423	42-10
常 滑 市 立 常 滑 小 学 校	字屋敷田 3	(5) 2104	38	〃 古 場 〃	古場字柳 6 7 の 7	(5) 4008	46-10
常 滑 市 立 西 浦 北 小 学 校	樽水字塩田 4 4 の 1	(5) 2164	42-2	〃 小 鈴 谷 〃	小鈴谷字梶田 2 5 の 2	小 19	48-10

常滑音頭

樋貝正幸 作詞
清水保雄 作曲

ハ アー

ト オ ト ト コー ナー メー ミナ ト ニ マチー ニー

ツンダ ヤキ モー ノー オオヤマ コヤー マー

サンギョ ハンジョト モメンノハータモー オサノヒビキデ ヒト ハヤシ (ソレ)

ホイサテ ビョウシ トントンビョウシ トントトコナメ ヨイチョウシ

常滑小唄

榊原言賢 作詞
清水保雄 作曲

Slowly

ト オ ト セン ネン ハン ジョ ノ ケムー リ ニシヘー

ヒガシヘー ヒモヨモナービク ヤエノー

ーシオー ジーノー カギーリーマーデー

常滑小唄

一、
陶都千年、繁昌のけむり
西へ東へ、日も夜もなびく
八重の汐路のかぎりまで

三、
のりの色香に、たもとをひかれ
浸たる湯けむり、大谷坂井
小夜のしおさい、夢のなか

四、
海はるり色、大野の浜辺
波は手招く、しぶきにぬれて
可愛い人魚の、みだれ髪

五、
知多の水、綿に、肌さえ匂う
杵なゆかたの、あの娘の酔で
地酒、よいよい、とんとろり

七、
海のギャンブル、こころもはずむ
うなるエンジン、風呼ぶレース
かける幸運、波の花

八、
伸びる常滑、栄える街よ
五色モザイク、七色タイル
世界いろどる、こころ意気

常滑音頭

作詞 樋貝正幸
作曲 清水保雄
振付 島田豊年

ハアー
一、
陶都常滑港に街に
横んだ、焼物、大山小山
産業、繁昌と木綿の織機も
おさのひびきで、一躍し

ホイサ手拍子、トントントン拍子
トント常滑よい調子

二、
灘と大野か小鈴谷かけて
浜は七色水着の花を
ボートレースのしぶきが呼べば
すべるヨットの帆も招く

ホイサ手拍子、トントントン拍子
トント常滑よい調子

ハアー
三、
木曾のたにみず、黄金の穂波、波
寄せる小波、夕日にはえて
熱い人情もいでゆの坂井
沖のえものは魚籠の中

ホイサ手拍子、トントントン拍子
トント常滑よい調子

四、
浮ぶ灯台、潮路を照らす
明日をさす手は踊りの手振り
ゆめも大きく伊勢湾抱いて
知多の要の伊達姿

ホイサ手拍子、トントントン拍子
トント常滑よい調子

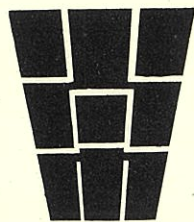
昭和42年11月1日発行

常 滑 市 勢 要 覧

発行 常滑市役所

編集 企画室

印刷 平和堂印刷



昭和42年

愛知県常滑市勢要覧
